

事業名		バリアフリーコンサート (ふれあいコンサート)		施設名	なら100年会館			
総合計画 該当項目	章	第2章	教育・歴史・文化	文化振興計画 該当項目	(2)-②③			
	基本施策	2-05	文化振興					
	施策	2-05-01	文化の振興					
実施形態	単発・継続	事業開始年	平成29年	実施回数 (今年度)	1回			
日時	令和2年2月15日(土)		会場	なら100年会館 小ホール				
目的と内容	障がいのある人もない人も、大人も子どもも、誰でもが一緒に楽しんでいただく「バリアフリーコンサート」です。当館主催事業「ウェルチユールコンサート」で最優秀に選出された、チューバ奏者中川敬斗氏と協働して企画し、地域貢献を目的として開催します。入場制限を行わず、どなたにでも楽しんでいただけるコンサートです。							
重点対象 (主なもの 3つまで)	市民	<input type="radio"/>	市外在住者	観光客	地域住民	<input type="radio"/>	未就学児	
	小中学生		若者(高・大等)	社会人(40歳未満)	社会人(40歳以上)		高齢者	
	子育て世帯		障がい者	<input type="radio"/>	在留外国人		訪日外国人	
重点対象に対する 課題と取り組み	障がいを持たれている方にも、気軽にご来場いただく為に、障がい者団体等を対象として積極的にチラシ配布等の広報活動に努めてまいります。また、入退場が容易である、客席面がフラット(平面)な小ホールで開催します。							
事業費(円)								
歳入								
予算	市費(指定管理料等)	142,000	その他収入 (事業収入等)	192,000	歳出			334,000
決算	市費(指定管理料等)	49,549	その他収入 (事業収入等)	88,190	歳出			137,739
事業成果								
アンケートの有無 (事業満足度、職員のホスピタリティ、施設の設備水準、事業を誰かに勧めたいか、の項目を入れたもの。)			有・無	アンケート結果	別紙添付			
指標		評価 (5点満点)	評価内容(件数・アンケート内容等、評価の根拠を記入)					
成	参加者数・参加率の達成度	2	目標値100人に対して67人。達成率は67%であった。 目標値: 100 実績値: 67					
	参加者満足度	4	アンケートを実施したところ、①大変良かった60%、②良かった36%、合計96%の方々に満足していただいた。					
果	重点対象に対する課題解決つながったか	2	障がいを持たれている方にも、気軽にご来場いただく為に、障がい者団体等を対象として積極的にチラシ配布等の広報活動に努めましたが、参加者数は7割弱の達成率にとどまった。					
	質の確保・向上につながる工夫がなされたか	3	メロディーと伴奏の違いを演奏する等、「チューバ」の裏方的な楽器のイメージが、主役を務めることでもできると分かる説明もあり楽しんでもらえた。					
総合評価(自動計算)				3				
参加者や協働相手からの意見		<p>(参加者) チューバ、ピアノ良かったです。知っている曲がチューバの音色と大変マッチしていて感動しました。楽しかったです。吹き分けが面白かったです。素晴らしい演奏でも感動しました。勉強になりました。とても素晴らしい演奏でした。チューバの音が響いて心に響きました。伴奏のピアノも最高でした!</p> <p>(協働者) 演奏者のアドリブを加えた説明とピアニストとの掛け合いもあり、演奏者の人柄が伝わり、親近感を持って、全体としてアットホームな雰囲気であった。リーズナブルで若手演奏家の発表の場として、開催頻度をあげて、市民に開かれた催しとして定着すれば有難いです。</p>						
評価年度の状況と課題				改善案・次年度以降の目標				
総括		小ホールにふさわしい企画で、演奏者とポピュラーなクラシックの、組み合わせのバランスが良かった。メロディーと伴奏の違いを演奏するなどして、構成に工夫がもたれて良かった。若手チューバ奏者の中川さんの人柄もあり、観客と演奏者の距離感が近いアットホームな雰囲気の中で行われて良かった。「チューバ」の裏方的な楽器のイメージが、主役を務めることでもできると分かる説明もあり楽しんでもらえた。小ホールは工事期間中も使用できるので、室内楽の演奏機会としての活用に期待したい。		昨年度公演と比較して、集客面で課題が残る結果となりました。誰でも来館していただきやすく、演奏者との距離も近くアットホームなコンサートということをも、強調して広報活動に努める。また、公演内容も、「劇中の高い」ものではなく、誰もが知っている曲目をラインアップする等、気楽に来館できる雰囲気づくりが大切である。演奏者側からの、一方通行的にならないように、双方向的にふれあえるパート等を企画するの一案である。				
評価								
(奈良市) 小ホールの特性を活かした企画内容となっている。日頃、音楽に触れる機会が少ない人であっても参加しやすくなるよう工夫されており、またチケット料も低く設定しているため、気軽に参加できるプログラムである。 (委員視察) 障がいのある人だけが対象でなく、親子連れも対象となっており、様々な属性の人が参加しやすいというコンセプトは社会包摂としての意義が高い。一方で、障がい者の方の参加が少ないように思った。来場者数の漸減傾向の理由を検討し、対策を検討する必要がある。								

奈良市文化振興計画 事業評価シート（令和元年度）

事業名		親子で楽しむ よちよちコンサート		施設名	なら100年会館					
総合計画 該当項目	章	第2章	教育・歴史・文化	文化振興計画 該当項目	(2)-②					
	基本施策	2-05	文化振興							
	施策	2-05-01	文化の振興							
実施形態	単発	継続	事業開始年	平成28年	実施回数 (今年度)	2回				
日時	令和元年12月22日(日) 10時、12時30分 開演		会場	なら100年会館 中ホール						
目的と内容	未来を担う子どもたちへの芸術・文化公演の実施や芸術文化の裾野を広げる多彩な事業を開催し、新たな観客層の獲得につなげる事業です。内容は、0歳から入場できる、親子で楽しめるコンサートです。親しみのある曲を聴いていただくとともに、参加コーナーでは楽器を貸出し一緒に演奏できる楽しいコンサートです。									
重点対象 (主なもの 3つまで)	市民	<input type="radio"/>	市外在住者	<input type="radio"/>	観光客	<input type="radio"/>	地域住民	<input type="radio"/>	未就学児	<input type="radio"/>
	小中学生	<input type="radio"/>	若者(高・大等)	<input type="radio"/>	社会人(40歳未満)	<input type="radio"/>	社会人(40歳以上)	<input type="radio"/>	高齢者	<input type="radio"/>
	子育て世帯	<input type="radio"/>	障がい者	<input type="radio"/>	在留外国人	<input type="radio"/>	訪日外国人	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>
その他	()									
重点対象に対する 課題と取り組み	小さなお子様方を中心としたファミリー向けのコンサートですので、若い世代の保護者の方々に伝えられるように、チラシ配布等に加えて、SNS等を活用した若年層世代にも響く告知に努めてまいります。									
事業費(円)										
歳入										
予算	市費(指定管理料等)	260,000	その他収入 (事業収入等)	238,000	歳出					
決算	市費(指定管理料等)	89,450	その他収入 (事業収入等)	315,350	498,000					
事業成果										
アンケートの有無 (事業満足度、職員のホスピタリティ、施設の設備水準、事業を誰かに勧めたいか、の項目を入れたもの。)			<input checked="" type="radio"/> 有・無	アンケート結果	別紙添付					
指標		評価 (5点満点)	評価内容(件数・アンケート内容等、評価の根拠を記入)							
成 果	参加者数・参加率の達成度	3	目標値380人に対して345人。達成率は90.7%であった。 目標値 380 実績値: 345							
	参加者満足度	4	アンケートを実施したところ、朝公演①大変良かった50%、②良かった36%、合計86%、昼公演①、大変良かった38%、②良かった50%、合計88%の方々に満足していただいた。							
	重点対象に対する課題解決つながったか	3	ファミリー向けのコンサートです、若い世代の保護者の方々に伝えられるよう、チラシ配布を幼稚園・保育園等で実施。SNS等を活用した若年層世代にも響く告知に努めたが、参加者数は9割の達成率にとどまった。							
	質の確保・向上につながる工夫がなされたか	3	出演者(ボーカリスト)が昨年公演より交代する等、変更点があった為、当館担当者を加えたミーティング、稽古を重ね、クオリティーの確保に努めました。							
総合評価(自動計算)		3								
参加者や協働相手からの意見		<p>(参加者) ずっと子供が楽しくすごせた。歌が楽しかった。声が聞き取りづらい部分があった。音楽のレベルがひどい。もっと曲をたくさんしてほしい。オリジナルいらない、子供なので、小さい子も楽しめるイベントで良かった。途中で子供が飽きるので、子供の知っている曲を連発してもらおう方がよいです。楽しかったです！知っている曲をたくさんしてほしいです！</p> <p>(協働者) 歌う時は笑顔で、目線は色んな所に配り、空いている左手は小さくをしながら等、頭を使い演奏。体力・気力・集中力すべてを演奏のみとはまた違うベクトルで使うパフォーマンスということ、新しい気付きがありました。また、舞台上立つことは本当に楽しいし、楽しませることができるとは素敵なことであると改めて感じることができました。</p>								
評価年度の状況と課題					改善案・次年度以降の目標					
<p>開催時間を10:00と12:30に変更。午前の方が人気だが、14:00に開催するよりも12:30に開催の方が午後の集客伸びたので、今後はこの時間に開催したい。 「昨年があまり楽しくなかったため、今回は・・・」等の声が聞こえてきたが、編成や形式を変えたこと積極的に会館Twitterへ情報を流したこと、記者室への投げ込みをおこなったこと、出演者の方にSNSでの広報やカフェ・図書館への置きチラシ、ポスター掲示のお願いをしてもらったことにより、お客様の目に触れる回数が増えるように努めました。</p>					<p>今回は、音楽劇のような形にしたが、生声で大丈夫だと舞台スタッフと相談して決まったが、こどもが入ると台詞の一部が聞こえなくなった。午後からは、客席を見切ったり、仕込みマイクを増やしたり、マイク近くで話してもらったりして、若干は改善されたが、今後演劇形式にするなら、そのあたりを考えて、脚本を作成しただけではならない。オリジナル曲に関しては、入れる箇所や時間等は検討が必要であると感じた。開始時間を早めたことにより当日にリハーサルができないので、その分、練習回数を増やす等の対応が必要だと感じた。</p>					
評価										
(奈良市)										
子どもが参加できる公演等は市内でも増加傾向にある。一方で、開催時期や内容についての工夫が必要となっている。本事業では音楽劇のような形で実施しており、子どもたちも長い時間を集中して鑑賞できる仕組みになっている。参加者数も目標に近い実績をあげることができている。										

奈良市文化振興計画 事業評価シート（令和元年度）

事業名		吹奏楽コンサート Osaka Shion Wind Orchestra		施設名	なら100年会館					
総合計画 該当項目	章	第2章	教育・歴史・文化	文化振興計画 該当項目	(2)-①②					
	基本施策	2-05	文化振興							
	施策	2-05-01	文化の振興							
実施形態	単発 継続	事業開始年	平成21年	実施回数 (今年度)	1回					
日時	令和元年12月8日(日) 15時開演		会場	なら100年会館 大ホール						
目的と内容	文化芸術に備わる特性を生かし、誰でも参加できる地域貢献事業として開催致します。みなさまに馴染み深い、Osaka Shion Wind Orchestraを招聘し、当館主催事業「ワーヴェルチュールコンサート」で最優秀に選出された、チューバ奏者中川敬斗氏をソリストに抜擢する等、市民とともに作り上げる「吹奏楽コンサート」を開催します。									
重点対象 (主なもの 3つまで)	市民	<input type="radio"/>	市外在住者	<input type="radio"/>	観光客	<input type="radio"/>	地域住民	<input type="radio"/>	未就学児	<input type="radio"/>
	小中学生	<input type="radio"/>	若者(高・大等)	<input type="radio"/>	社会人(40歳未満)	<input type="radio"/>	社会人(40歳以上)	<input type="radio"/>	高齢者	<input type="radio"/>
	子育て世帯	<input type="radio"/>	障がい者	<input type="radio"/>	在留外国人	<input type="radio"/>	訪日外国人	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	その他	()								
重点対象に対する 課題と取り組み	希望者を募り公演終了後に、各パート(楽器別)に分かれてレッスンをを行います。また、通常の広報活動に加えて、奈良県吹奏楽連盟を介して奈良県の中学校の吹奏楽部に対して、強かにアプローチを図り入場者数の増加に努めてまいります。									
事業費(円)										
	歳入					歳出				
予算	市費(指定管理料等)	2,237,000			その他収入 (事業収入等)	3,650,000			5,887,000	
決算	市費(指定管理料等)	2,115,077			その他収入 (事業収入等)	2,925,500			5,040,577	
事業成果										
アンケートの有無 (事業満足度、職員のホスピタリティ、施設の設備水準、事業を誰かに勧めたいか、の項目を入れたもの。)				有・無		アンケート結果		別紙添付		
指標		評価 (5点満点)		評価内容(件数・アンケート内容等、評価の根拠を記入)						
成	参加者数・参加率の達成度	3		目標値750人に対して751人。達成率は100.1%であった。 目標値：750 実績値：751						
	参加者満足度	4		アンケートを実施したところ、①大変良かった64%、②良かった31%、合計95%の方々に満足していただいた。						
果	重点対象に対する課題解決つながったか	3		楽器別レッスンと公演鑑賞を目的とした、中学・高校生への勧誘を重点的に取組んだ、部活単位での参加もあったが、逆に部活動の練習等と重なり鑑賞に繋がらないケースもありました。						
	質の確保・向上につながる工夫がなされたか	3		著名なOsaka Shion Wind Orchestraを招聘、クリスマスソングや映画音楽等、多くの方々に親しみやすい曲目を選定し、クオリティーを保ちつつ、気軽に来場できる公演とした。						
総合評価(自動計算)				3						
参加者や協働相手からの意見				<p>(参加者) 知っている曲がたくさんあった。初めてでした。迫力がすごい。変化があって良かった。久しぶりの詩音。クリスマスメドレーが色々な曲があり楽しかったです。こども五歳と一緒に来させてもらったのですが、知っている曲が多く、説明もあり、分かりやすかったです。知っていた曲が・・・、心で唄った。などの声をいただきました。</p> <p>(協働者) 普段ソロを吹く機会とは全く違う規模のお客様とホールの大きさに圧倒され、演奏準備は、すごく緊張しました。しかし、演奏していくうちに緊張が解けてきて、楽しく、時が瞬で過ぎていきました。本当に良い経験と思い出になりました。ありがとうございます。(チューバ奏者：中川敬斗)</p>						
評価年度の状況と課題				改善案・次年度以降の目標						
<p>誰もが知っている、クリスマスソングや映画音楽を組み込むことによって、クラシック公演にありがちな、敷居の高さを払拭したプログラムを設けました。また、公演鑑賞に加えて、希望者を募り楽器別のレッスン(クリニック)を行いました。鑑賞いただいた方、レッスンに参加された方には好評でありました。参加者数の目標値には達しましたが、当初想定をした、中学・高校の部活動単位の参加に限られた数にとどまってしまうました。</p>				<p>クリスマスコンサートは、平成21年より開催し徐々にではありますが、市民の方々に認知されてまいりました。また、過去には千名を超える集客を得た公演もありました。今後については、お客様のニーズを注視し喜んでいただける内容、購買意識を向上させる企画を取り入れ、多くの方々に鑑賞していただけるよう努めます。特に中高の吹奏楽部(音楽系部活)へのアプローチに關注してまいります。</p>						
<p>評価</p> <p>(奈良市) 曲目をなじみがあるものにするなどすることにより、一定の参加者を確保することができている。また、クリスマスコンサートとして毎年開催していることでリピーターにもつながっていることが考えられる。一方で重点対象を小中学生や若者に設定しているが、参加者の年齢比率をみると少ない。施設においても中高の吹奏楽部へのアプローチを課題としているが、市の文化振興事業全体の課題でもあり今後の課題である。</p>										

奈良市文化振興計画 事業評価シート（令和元年度）

事業名		ならまちクリスマスコンサート		施設名	奈良市ならまちセンター		
総合計画 該当項目	章	第2章	教育・歴史・文化		文化振興計画 該当項目	(2) -①, ②, ④	
	基本施策	2-05	文化振興				
	施策	2-05-01	文化の振興				
実施形態	継続		事業開始年	2018年		実施回数 (今年度)	2回
日時	2019年12月15日(日) ①11:00 ②14:00		会場	市民ホール			
目的と内容	目的：親子で地域の催しに参加することによって様々な気付きを得るとともに、楽しい体験の共有で親子の良い関係を一層深める。 内容：乳幼児から参加でき、親子を対象とした吹奏楽によるクリスマスファミリーコンサート。						
重点対象 (主なもの 3つまで)	市民	市外在住者	観光客	地域住民	○	未就学児	○
	小中学生	若者(高・大等)	社会人(40歳未満)	社会人(40歳以上)		高齢者	
	子育て世帯	障がい者	在留外国人	訪日外国人			
	その他	()					
重点対象に対する 課題と取り組み	課題：集客 取り組み：広報宣伝として、奈良市広報の活用、文化施設・関係各所他へのチラシ配布、新聞等への告知掲載依頼等						
事業費(円)							
	歳入			歳出			
予算	市費(指定管理料等)	0	その他収入 (事業収入等)	400,000		400,000	
決算	市費(指定管理料等)	0	その他収入 (事業収入等)	239,400		239,400	
事業成果							
アンケートの有無 (事業満足度、職員のホスピタリティ、施設の設備水準、事業を誰かに勧めたいか、の項目を入れたもの。)			有	アンケート結果			
指標		評価 (5点満点)	評価内容(件数・アンケート内容等、評価の根拠を記入)				
成	参加者数・参加率の達成度	3	参加者数は383人、参加率は95.75%で、計画段階と比べると概ね達成することができた。				
	参加者満足度	4	アンケート結果では、大変良かった84.5%、よかった11%と、95.5%の方に満足いただいていると考えられる。				
果	重点対象に対する課題解決つながったか	5	奈良市、奈良県の各記者クラブに投げ込みを行い新聞等で告知記事を掲載していただいたり、当施設周辺の保育園、幼稚園、小学校にチラシ配布をお願いした。また、出演団体の各メンバーにも広報宣伝とチケット販売に協力していただき、それらすべてが幅広い方の集客につながったと考える。				
	質の確保・向上につながる工夫がなされたか	4	出演者は、奈良県を代表する一般吹奏楽団で、関西大会出場常連団体であり、過去には全国大会出場も果たした実力ある一般吹奏楽団。演奏はもとより楽しい演出でも定評があり、会場一体となる演出で楽しませてくれた。				
総合評価(自動計算)		4					
参加者や協働相手からの意見		(参加者) ・子どもと一緒に生で演奏を聴けて良かった。 ・参加型で、ちびっこも楽しめてとても良かったです。 ・子どもたちが歌ったり動いたりできる音楽で時間もちょうど良かったです。 (協働者) 親子で楽しめるコンサートは、客席を身近に感じられて、お客様の反応を肌で感じることができて演奏していてとても楽しかった。多くのお客様の前で演奏することができて良かった。今後も是非、演奏させていただきたい。					
総括	評価年度の状況と課題			改善案・次年度以降の目標			
	親子向けコンサートは、出演団体の素晴らしい演奏と楽しい企画演出で、多くのお客様に楽しんでいただくことができた。子どもさんの体調などを考えての直前までのチケット買い控えがあり、当日のチケット販売枚数が読めず慌てて一幕があった。			好評であった演出・構成を次年度以降も継続させ、さらに新しいものを出演者と共に作り上げていきたい。			
評価							
(奈良市) 地域の学校園にチラシを配布することで、安定した集客につながっていると考えられる。出演者の質も担保されており、客席から参加できる企画も多く、満足度も高い。一方で、定番の企画は飽きられてしまう可能性もあるので、毎年新規性のある演出や企画を準備していく必要がある。							

奈良市文化振興計画 事業評価シート (令和元年度)

事業名		ならまちコンサート		施設名	奈良市ならまちセンター					
総合計画 該当項目	章	第2章	教育・歴史・文化	文化振興計画 該当項目	(2) - ①・(5) - ②					
	基本施策	2-05	文化振興							
	施策	2-05-01	文化の振興							
実施形態	継続	事業開始年	平成20年度	実施回数 (今年度)	1					
日時	2019年6月15日(土) 14:00		会場	奈良市ならまちセンター市民ホール						
目的と内容	洗練された演奏家による演奏会を開催し、ならまちの文化芸術のすそ野を広げる。 奈良県出身のプロジャズピアニスト・作曲家である秋田慎治によるソロピアノライブを開催し、文化芸術を担う人材の育成に努める。									
重点対象 (主なもの 3つまで)	市民	<input type="checkbox"/>	市外在住者	<input type="checkbox"/>	観光客	<input type="checkbox"/>	地域住民	<input type="checkbox"/>	未就学児	<input type="checkbox"/>
	小中学生		若者(高・大等)		社会人(40歳未満)		社会人(40歳以上)		高齢者	
	子育て世帯		障がい者		在留外国人		訪日外国人			
	その他	()								
重点対象に対する 課題と取り組み	課題：もう一度来たくなるようなコンサートを目指す。 取り組み：演奏だけでなく親しみあるコンサートを行いファンを増やす。									
事業費(円)										
予算	市費(指定管理料等)		0	その他収入 (事業収入等)	400,000	歳出		400,000		
	決算		0	その他収入 (事業収入等)	344,000			344,000		
事業成果										
アンケートの有無 (事業満足度、職員のホスピタリティ、施設の設備水準、事業を誰かに勧めたいか、の項目を入れたもの。)				有	アンケート結果					
指標			評価 (5点満点)	評価内容(件数・アンケート内容等、評価の根拠を記入)						
成 果	参加者数・参加率の達成度		3	参加者数138人、参加率92%で、概ね目標は達成できたと思う。 目標値：160 実績値：138						
	参加者満足度		4	アンケートは、大変よかった79%、よかった21%の結果で、参加者には満足いただいていると考えられる。						
	重点対象に対する課題解決つながったか		3	プログラム中に客席からのリクエストコーナーを設け、演奏者と観客が一体となれる時間を作ることができ、親近感あふれるコンサートとなった。						
	質の確保・向上につながる工夫がなされたか		4	出演者は、ジャズピアニストであり作曲家でもある秋田慎治。日常的なジャズアンサンブル内でのピアニストとしての活動のみならず、ジャズピアノのソロライブを10年以上続けている実力派。						
総合評価(自動計算)			4							
参加者や協働相手からの意見			(参加者) ・楽しかった。これからも続けて欲しいです。 ・あっという間の2時間でした。 ・即興コーナーが楽しかったです。 (協働者) 出身地の奈良で継続してのコンサートを開催していただけて感謝している。次回も開催していただけることを強く希望。							
総括	評価年度の状況と課題				改善案・次年度以降の目標					
	継続開催しているため固定ファンが増えてきているものの、目標値を超える集客にはなかなかつながっていない。コンサートは、出演者と観客一体となるような内容を盛り込み盛り上がった。引き続き、観客の印象に残るような盛り上がるコンサートを目指したい。				広報宣伝の一環として広報媒体では、情報掲載だけでなく記事として掲載していただけるような工夫をしていきたい。開催内容の見直しとして、ジャズにこだわらず他のジャンルも視野に入れ広く地域に根差したコンサートを企画したい。また、次年度以降は、収容人数の半数以上の集客を目指す。					
評価										
(奈良市)										
奈良県出身のアーティストを出演者とする中で、文化芸術人材の育成へつなげることも目的としているが、近年は同じアーティストによる企画となっているため、今後は出演者あるいは事業目的の見直しが必要。 リピーターが増えているとのことであるが、新たに参加いただけるような工夫も必要である。										

奈良市文化振興計画 事業評価シート（令和元年度）

事業名		ならまち落語会		施設名	奈良市ならまちセンター		
総合計画 該当項目	章	第2章	教育・歴史・文化	文化振興計画 該当項目	(2)-①・②・④ (4)-①・③・④		
	基本施策	2-05	文化振興				
	施策	2-05-01	文化の振興				
実施形態	継続	事業開始年	平成20年度	実施回数 (今年度)	1回		
日時	2020年1月26日(日) 14:00		会場	市民ホール			
目的と内容	奈良市出身の落語家による落語会を開催し、ならまちににぎわいを育み伝統芸能のすそ野を広げる。						
重点対象 (主なもの 3つまで)	市民	○	市外在住者	観光客	地域住民	○	未就学児
	小中学生		若者(高・大等)	社会人(40歳未満)	社会人(40歳以上)		高齢者
	子育て世帯		障がい者	在留外国人	訪日外国人		
その他	()						
重点対象に対する 課題と取り組み	課題：集客 取り組み：広報宣伝として、奈良市広報の活用、文化施設各所他へのチラシ配布、新聞等への告知掲載依頼等						
事業費(円)							
	歳入			歳出			
予算	市費(指定管理料等)	0	その他収入 (事業収入等)	240,000	240,000		
決算	市費(指定管理料等)	0	その他収入 (事業収入等)	236,500	236,500		
事業成果							
アンケートの有無 (事業満足度、職員のホスピタリティ、施設の設備水準、事業を誰かに勧めたいか、の項目を入れたもの。)			有	アンケート結果			
指標		評価 (5点満点)	評価内容(件数・アンケート内容等、評価の根拠を記入)				
成 果	参加者数・参加率の達成度	3	参加者数110人、参加率91.6%で、ほぼ目標値を達成できたと考える。 目標値：120 実績値：110				
	参加者満足度	4	大変良かったが74%、良かったが24%と、ほぼ100%の方に満足いただけている。				
	重点対象に対する課題解決つなげたか	3	出演者にもチケット販売協力をして頂いたり、他の施設でのチラシの積み込みや他の催しでのチラシ配布を行ったりしたが、思いのほか集客にはつながらなかった。				
	質の確保・向上につながる工夫がなされたか	5	本事業は奈良市出身や奈良で活動されている断家を応援するとともに、奈良の特色を活かした寄席の実現を目指している。奈良市出身の落語家笑福亭生寿さんを中心にその師匠他2名の計4名で開催した。質の確保は言うまでもなく、専門家としての伝統芸能を市民に体験していただくことが出来た。				
総合評価(自動計算)		4					
参加者や協働相手からの意見		(参加者) ・来年も楽しみにしています。 ・今回と同様の催しを希望。 (協働者) 奈良にゆかりのある落語家より地域色のある落語会にしていくよう、協働団体の「奈良町落語館」と検討することで一致した。					
総括	評価年度の状況と課題			改善案・次年度以降の目標			
	奈良市出身の落語家を中心にした落語会。7回目を迎え、少しずつではあるがリピーターも増えてきている。メディアで露出の多い落語家でないとなかなか集客には繋がりが難しい中、何の縁も無い落語家を誘致するよりは奈良の特色を活かせる演者を選び、継続開催し落語会を根付かせていきたい。			地道な声かけによるポスター掲示協力や、チラシの配布など広報宣伝を継続していきたい。マスコミ等には、情報掲載だけでなく記事として掲載していただけるよう広報面で工夫していきたい。公演内容やジャンルにかかわらず地域の方が、毎回開催を楽しみにしていただける「ならまち落語会」となるようにしていきたい。			
総評価							
(奈良市) 目標に近い実績を得ることができたが、重点対象に対する取組としては改善の余地がある。家族向けのイベントの場合は地域の学校園へのチラシ配布が効果的であるが、全年齢向けの場合は地域への広報が難しくなる。奈良に縁がある出演者を設定することで、集客で苦労している面もある。							

奈良市文化振興計画 事業評価シート（令和元年度）

事業名		わらべうた教室 (大人が学ぶ「わらべうた」)		施設名	奈良市音声館						
総合計画 該当項目	章	第2章	教育・歴史・文化	文化振興計画 該当項目	(4)-① (9)-①						
	基本施策 施策	2-05 2-05-01	文化振興 文化の振興								
実施形態	単発	<input checked="" type="radio"/> 継続	事業開始年	平成30年	実施回数 (今年度)	年5回					
日時	2019年 4月20日(土)午後1時30分～3時 6月15日(土)午後1時30分～3時 9月11日(水)午前10時～11時30分 11月30日(土)午前10時～11時30分 2020年 1月15日(水)午前10時～11時30分		会場	音声館ホールまたはブレイルーム2							
目的と内容	奈良に伝わる「わらべうた」を継承し、ならまちの文化振興に役立てるとともに、わらべうたを通して奈良の歴史や文化への関心を育み、ふるさと奈良への愛情と誇りを育む。 わらべうた本来の姿を大切にしながら現在にふさわしいアプローチ方法を用いてわらべうたへの興味・関心を引き出し、同時にわらべうたを通して人間関係づくりを援助し、幅広い層での世代間交流を経験できる場を提供する。 対象：18歳以上10名程度										
重点対象 (主なもの 3つまで)	市民	<input type="radio"/>	市外在住者	<input type="radio"/>	観光客	<input type="radio"/>	地域住民	<input type="radio"/>	未就学児	<input type="radio"/>	
	小中学生	<input type="radio"/>	若者(高・大等)	<input type="radio"/>	社会人(40歳未満)	<input type="radio"/>	社会人(40歳以上)	<input type="radio"/>	高齢者	<input type="radio"/>	
	子育て世帯	<input type="radio"/>	障がい者	<input type="radio"/>	在留外国人	<input type="radio"/>	訪日外国人	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	
	その他	()									
重点対象に対する 課題と取り組み	わらべうた遊びの実践を通して奈良のわらべうたを学び、家庭や地域での活動に生かしてもらおう。										
事業費(円)											
	歳入										
予算	市費(指定管理料等)	<input type="radio"/>	0	その他収入(事業収入等)	3,274,000	歳出				3,274,000	
決算	市費(指定管理料等)	<input type="radio"/>	0	その他収入(事業収入等)	2,070,727					2,070,727	
事業成果											
アンケートの有無 (事業満足度、職員のホスピタリティ、施設の設備水準、事業を誰かに勧めたいか、の項目を入れたもの。)			<input checked="" type="radio"/> 有		アンケート結果		2/5回 実施 (回収率100%)				
指標		評価 (5点満点)		評価内容(件数・アンケート内容等、評価の根拠を記入)							
成	参加者数・参加率の達成度	2		年5回の開催。その都度募集をしているが継続して参加してくれている人が多い。その反面新規参加者があまり増えない。また、回によって参加者数のバラつきがある。 目標値：50 実績値：30							
	参加者満足度	4		子育て支援や図書館での読み聞かせ、小学校や地域での支援活動等様々な活動をされている方が受講されている。高齢者と子どもたちが共に遊び楽しめる「わらべうた」の魅力や奥深さを改めて知ることができたと評価を頂いた。							
果	重点対象に対する課題解決つながったか	3		地域活動等をする中で、どのような遊びを取り入れたら良いか、またバリエーションが少なく困っていた、という方が多く、その解決に繋がったと評価をもらっている。							
	質の確保・向上につながる工夫がなされたか	3		5回の講座をわらべうた教室講師3人が順に受け持っているが、内容についての意見交換や終了後の反省会などを行い、回数を重ねるごとに内容充実するよう努めている。							
総合評価(自動計算)		3									
参加者や協働相手からの意見		(参加者アンケートより)・勤務先の特別支援学校の職員を対象に、わらべうたのワークショップを実施していて、音楽の単元としてわらべうた遊びを取り入れています。遊び方のバリエーションを教えていただけ良かった。・乳幼児の親子を対象に、自主グループ活動で絵本の読み聞かせをしていてわらべうたも取り入れている。スタッフにはこの講座を受けるように勧めている。・今年、小1の担任になりました。わらべうたをやってみたいと思います。・遠方(鹿耳島)在住のため、なかなか参加できないが、季節の事務も絡めたりして良かった。もっともっとわらべうた遊びを広げていかなければとと思いました。 (協働者)									
総括	評価年度の状況と課題				改善案・次年度以降の目標						
	子育て支援・地域活動等のボランティア活動をしている参加者が多い。子どもの情操教育における「わらべうた遊び」の必要性を感じている人が多く、この講座への評価も高かった。しかし保育や幼児教育の現場では世代的に「わらべうた遊び」を経験した親や教師が減っていることでわらべうたが伝承されにくくなっている。そのことを踏まえ、いかに伝承していくかが課題である。				昨年度の参加者で幼・小の教諭を目指す大学生を指導する立場の方が、この講座に参加したことをきっかけに、学生向けへの講座依頼があった。そのような未来を担う学生や若い指導者たちへの伝承の仕方を模索していきたい。						
評価											
(奈良市) アンケートからみると、単にわらべうたを学ぶというより、自らの活動にわらべうたを活かそうとする方の参加がみられる。同施設で実施している子ども対象のわらべうた教室に加えて、本事業や出張わらべうた教室を実施することで、裾野を広げることにつながると思われる。一方で新規参加者が増えにくいことが課題となっている。											

奈良市文化振興計画 事業評価シート（令和元年度）

事業名		日本の伝統文化を学ぼう (子どもお茶教室・子どもいけ花教室)		施設名	奈良市音声館
総合計画 該当項目	章	第2章	教育・歴史・文化	文化振興計画 該当項目	(18) -①
	基本施策 施策	2-05 2-05-01	文化振興 文化の振興		
実施形態	単発・ 継続	事業開始年	お茶教室：平成15年 いけ花教室：平成30年	実施回数 (今年度)	お茶教室：年13回 いけ花教室：年11回
日時	お茶教室：毎月第1もしくは第2日曜 正午～午後3時 いけ花教室：毎月第1もしくは第2土曜 午前9時30分～正午		会場	お茶教室：音声館和室 いけ花教室：音声館会議室または和室	
目的と内容	日本に伝わる伝統的な文化を広い範囲で取り上げ、次世代への継承を積極的に行う。 また経験を通して日本の文化を知り、ふるさとを愛する心を育む。				
重点対象 (主なもの 3つまで)	市民	市外在住者	観光客	地域住民	未就学児
	小学生 子育て世帯 その他	若者(高・大等) 障がい者	社会人(40歳未満) 在留外国人	社会人(40歳以上) 訪日外国人	高齢者
重点対象に対する 課題と取り組み	お茶教室：茶道における基本的な作法や点前を稽古を通して学び、年4回、音声館主催のイベントなどで『茶会』を開き成果発表の場とする。 いけ花教室：植物に触れ親しみ華道における基本的な所作を学ぶ。年1回発表会を開催し学習の成果を披露する。				
事業費(円)					
		歳入		歳出	
予算	市費(指定管理料等)	0	その他収入 (事業収入等)	220,000	220,000
決算	市費(指定管理料等)	0	その他収入 (事業収入等)	187,881	187,881
事業成果					
アンケートの有無 (事業満足度、職員のホスピタリティ、施設の設備水準、事業を誰かに勧めたいか、の項目を入れたもの。)		<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無		アンケート結果	別紙
指標		評価 (5点満点)	評価内容(件数・アンケート内容等、評価の根拠を記入)		
成	参加者数・参加率の達成度	3	(お茶) 応募多数で抽選の結果、落選者が複数名出た。 (いけ花) 昨年度より応募が増え(6人→10人)、目標人数に達した。 目標値：30 実績値：30(お茶20 いけ花10)		
	参加者満足度	4	日本の伝統文化を経験させたいという親の希望も多いように思うが、教室内で取り進む様子を見ていると子どもたちが積極的に学ぶ姿勢が見られた。堅苦しいイメージの伝統文化を先生方がより楽しく、気軽に取り組めるように工夫されていて、それに対する受講生や保護者からの評価が高かった。		
果	重点対象に対する課題解決つながったか	3	(お茶) 受講生20人に対し講師7人で指導がされた。毎回充実した稽古をし、発表の場とするお茶会も予定通りの開催で子どもたちの成果発表の場となった。(いけ花) 年1回の発表がコロナによる中止で行えなかった。通常稽古は講師1人に対し10人の受講生と過密であるが、時間差で行うことでスムーズに行えた。		
	質の確保・向上につながる工夫がなされたか	4	(お茶) ボランティア指導者を1名迎え、より充実した指導ができた。		
総合評価(自動計算)		4			
参加者や協働相手からの意見		(参加者アンケートより)【お茶】日本の伝統文化に触れられることと先生方のご指導が丁寧で親切であることが良かった。／お茶会での日頃の成果を発揮する場、機会で成長を感じています。 【いけ花】家に帰ってからのお稽古をしてくれるのが楽しみです。これからも続けたいと言っているのが嬉しです。／月1回のお稽古でもこんなに上達するのかと嬉しく思っています。 (協働者)			
評価年度の状況と課題		改善案・次年度以降の目標			
総括	受け継がれるべき日本の伝統文化は、文化の多様化の進む現代社会において見過ごされがちなところがあるが、お茶教室に関しては持続的に人気があり、子ども(または保護者)の伝統文化に対する興味の高さが伺える。ただ、教室の性質上受け入れ人数に限りがあることが課題。いけ花は新事業としての開催であったが、目標人数に達することができた。今後どのように広げていくか、受講生を増やしていくかが課題である。		お茶教室は定期的に発表の場があるが、客は家族等の多くは身内であり、一般の客も固定客が多いので今後は新たな客層を取り入れたい。いけ花は年に1度の発表のみなので、今後可能な範囲で発表の場や他のイベントと併せるなどして、周知できる機会をより多く持てたら良い。		
評価					
(奈良市) お茶教室は定員を上回る応募があったが、定員を増やすことが難しく、参加をお断りする方も出ている。発表の場が家族等が中心となっている現状があるため、企画内容を工夫することで、地域との交流も視野にいたれた内容にしていく必要がある。					

奈良市文化振興計画 事業評価シート（令和元年度）

事業名		特別コンサート		施設名	奈良市音声館	
総合計画 該当項目	章	第2章	教育・歴史・文化	文化振興計画 該当項目	(2)-① (5)-①	
	基本施策	2-05	文化振興			
	施策	2-05-01	文化の振興			
実施形態	単発 継続		事業開始年	平成30年	実施回数 (今年度)	年3回
日時	2019年 ①気軽にJazz！： 7月21日(日)午後2時～3時30分 ②浄瑠璃ってな～に？： 10月14日(月・祝)午後2時～3時30分 ③ラ・ハイア室内楽団： 11月2日(土)午後6時～7時30分		会場	音声館ホールまたはエントランスホール		
目的と内容	わらべうたを含めた幅広い音楽分野を基本に、老若男女が歌や楽器に親しみながら多くの人と心をつなげて活動をして、共に楽しむ場を提供する。					
重点対象 (主なもの 3つまで)	市民	○	市外在住者	観光客	地域住民	未就学児
	小中学生		若者(高・大等)	社会人(40歳未満)	社会人(40歳以上)	高齢者
	子育て世帯 その他		障がい者	在留外国人	訪日外国人	
重点対象に対する 課題と取り組み	様々なジャンルの音楽家を迎えて子どもから大人までが楽しめるコンサートを行う。					
事業費(円)						
予算	市費(指定管理料等)		歳入		歳出	
			0	その他収入 (事業収入等)	301,000	301,000
決算	市費(指定管理料等)		歳入		歳出	
			0	その他収入 (事業収入等)	318,631	318,631
事業成果						
アンケートの有無 (事業満足度、職員のホスピタリティ、施設の設備水準、事業を誰かに勧めたいか、の項目を入れたもの。)			○ 無	アンケート結果	別紙①～③	
成 果	指標	評価 (5点満点)	評価内容(件数・アンケート内容等、評価の根拠を記入)			
	参加者数・参加率の達成度	4	①87人(目標90) ②74(目標50) ③74(目標70) 当日の欠席により目標値より低いものもあるが、チケット販売数はいずれも目標達成または目標以上であった。 目標値 210 実績値: 235			
	参加者満足度	3	①～③のいずれも企画や演奏内容に対する評価は高く満足である。アンケートによる施設設備の満足度の項目で不満と回答した人の多くは「洋式トイレが少ない」という意見だと思われる(直接意見があった)。			
	重点対象に対する課題解決つながったか	3	老若男女という部分で②は子ども邦楽教室の子どもたちが多く参加してくれたのでほぼ目標達成であるが、全体的に中高年齢層の割合が高いので、今後は子ども対象の企画も入れていきたい。			
	質の確保・向上につながる工夫がなされたか	3	①②は企画段階より出演者と話し合い、主な客層や当館のニーズに合った内容を共に考え企画した。 ③は当日リクエストをプログラムに取り入れた。②は初心者に分かりやすい解説を求めた。			
総合評価(自動計算)			3			
参加者や協働相手からの意見			(参加者アンケートより)①期待以上に楽しい時間を過ごせました。生のジャズを初めて聞きました。また聞きたい。 ②演奏とお話で浄瑠璃のことをとても理解した。シリーズ化してほしい。 ③演奏者を身近な距離で見ることができてとてもよかった。迫力がありました。/弦楽器の響きが素晴らしい。たくさん聞きたい。 (協働者)			
総括	評価年度の状況と課題			改善案・次年度以降の目標		
	客層を広げるために、なるべくジャンルの違う音楽を提供し、一定の評価を得ることができた。これを継続できるよう新たな企画、より充実した企画を考えていくことが課題である。			①②は継続して行う。③は内容を変え、新しい企画を入れる予定。 新しいジャンルの催しをできる限り取り入れていき、新たな固定客を確保していきたい。		
評価 (奈良市) 各回の内容をジャンルの違うものにしていくことで、より広い対象へ興味を持ってもらえるようにしている。高齢者が多いもののチケット実績も目標を超えるものであり、順調に進捗できている事業である。ただし、ノンジャンルの企画であるため、事業目的や重点対象を意識しなければ、企画意図が伝わりにくくなる可能性がある。						

奈良市文化振興計画 事業評価シート（令和元年度）

事業名		暗室体験～ピンホールカメラ～		施設名	入江泰吉旧居					
総合計画 該当項目	章	第2章	教育・歴史・文化	文化振興計画 該当項目	(1) - ①					
	基本施策	2-05	文化振興							
	施策	2-05-01	文化の振興							
実施形態	単発・継続	事業開始年	平成30年度	実施回数 (今年度)	年2回					
日時	9月15日(日)、16日(月・休)		会場	入江泰吉旧居及び東大寺境内						
目的と内容	入江の大和路初期作品が生み出された暗室を使って、写真の原理とモノクロ現像の体験を行う。またカメラの原理、暗室作業を知っていただくために、ピンホールカメラを事前に用意し撮影、現像、プリント作業をする。写真文化の振興に努める。									
重点対象 (主なもの 3つまで)	市民	○	市外在住者	○	観光客	○	地域住民		未就学児	
	小中学生		若者(高・大等)		社会人(40歳未満)		社会人(40歳以上)		高齢者	
	子育て世帯		障がい者		在留外国人		訪日外国人			
	その他	()								
重点対象に対する 課題と取り組み	デジタル写真が主流のなか、写真の原理を学ぶ良い機会とし、多様な写真表現への魅力を伝える。あわせて入江が使っていた暗室で体験することで、彼の仕事の一端を紹介する。									
事業費(円)										
	歳入				歳出					
予算	市費(指定管理料等)		0	その他収入 (事業収入等)	10,000					10,000
決算	市費(指定管理料等)		0	その他収入 (事業収入等)	2,070					2,070
事業成果										
アンケートの有無 (事業満足度、職員のホスピタリティ、施設の設備水準、事業を誰かに勧めたいか、の項目を入れたもの。)				有・無	アンケート結果	別紙参照				
	指標	評価 (5点満点)	評価内容(件数・アンケート内容等、評価の根拠を記入)							
成	参加者数・参加率の達成度	2	目標値1回につき5人を予定、10人の参加者数に対し、6人。達成率は60%。初日の参加率が悪い。土、日曜と連続して開催したためか、または天候が優れなかったことも要因のひとつにあると思われる。 目標値: 各5人 × 2回 = 10人 実績値: 1日目=1人/2日目=5人 計6人							
	参加者満足度	4	参加者は30代から60代の男女。市内、県内、県外からの参加者もあり、ピンホールカメラでの撮影と現像に興味津々で取り組んでおり、満足していただけたと思われる。							
果	重点対象に対する課題解決につながったか	4	参加者にとって初めての体験であり、ピンホールカメラの仕組みや原理、写真表現の魅力を知っていただけたと考える。							
	質の確保・向上につながる工夫がなされたか	3	写真美術館協力のもと、ピンホールカメラの撮影、モノクロプリントの現像、プリント作業等、写真の魅力を引き出し、講座の内容、質は維持できたと思われる。							
総合評価(自動計算)		3								
参加者や協働相手からの意見		(参加者) *「初めて暗室体験を行い面白かった」(県内・男性・40代) *「今回のピンホールカメラは大変面白かったです。アルビューメンプリントの講座等も企画してほしい」(市内・男性) 他 (協働者) カメラや写真の原理を知る、または体験できる、良い企画と思っている。しかしながら暗室が狭く大人数での作業は困難なため分散したが、今後、周知をどのように展開していくか検討が必要。								
総括	評価年度の状況と課題				改善案・次年度以降の目標					
	旧居の暗室を使って、ピンホールカメラでの撮影、すぐさま現像してプリントできる一連の体験講座は、写真文化向上に役立てると思われる。しかしながら人数を多く集めて収益をあげる事業としては難しい面はある。人数制限の問題や広報の周知、材料費等、課題はあるが、ひとつずつクリアしながら地道に実績を積み重ねていかねばならないと思う。				暗室体験を連続して2日間開催したが、別の日を設けて実施する方向で検討する。また広報にいたっては、まだまだ周知が徹底されていない感があるため、見直しを図る予定。 大学からもピンホールカメラを使った体験講座について問合せもあり、今後、連携協力を事業展開ができないか検討する予定である。					
評価										
(奈良市) 入江作品の生まれてきた場所で体験できるという価値はあるが、参加者数の実績にはつながっていないと思われる。施設の立地から市民に加えて観光客の参加も見込まれるため、課題となっている広報等は対象を意識した方法を検討する必要がある。										

奈良市文化振興計画 事業評価シート（令和元年度）

事業名		入江泰吉と万葉集		施設名	入江泰吉旧居						
総合計画 該当項目	章	第2章	教育・歴史・文化	文化振興計画 該当項目	(1) - ①						
	基本施策	2-05	文化振興								
	施策	2-05-01	文化の振興								
実施形態	単発・継続	事業開始年	平成30年度	実施回数 (今年度)	2回						
日時	7月28日、8月25日		会場	入り江泰吉旧居							
目的と内容	入江、晩年の撮影テーマであった「万葉集」から、入江作品と奈良大和路の歴史文化を学び、奈良への愛情と魅力を学ぶ。										
重点対象 (主なもの 3つまで)	市民	○	市外在住者	○	観光客	○	地域住民		未就学児		
	小中学生		若者(高・大等)		社会人(40歳未満)		社会人(40歳以上)		高齢者		
	子育て世帯		障がい者		在留外国人		訪日外国人				
	その他	()									
重点対象に対する 課題と取り組み	入江も好きだった万葉集をテーマに奈良の魅力を掘り下げる。あわせて入江の撮影への思いを語る。										
事業費(円)											
	歳入				歳出						
予算	市費(指定管理料等)		○	その他収入 (事業収入等)	20,000					20,000	
決算	市費(指定管理料等)		○	その他収入 (事業収入等)	10,000					10,000	
事業成果											
アンケートの有無 (事業満足度、職員のホスピタリティ、施設の設備水準、事業を誰かに勧めたか、の項目を入れたもの。)				有・無	アンケート結果	別紙参照					
	指標	評価 (5点満点)	評価内容(件数・アンケート内容等、評価の根拠を記入)								
成	参加者数・参加率の達成度	1	目標値1回につき20人を予定、40人の参加者数に対し、15人。達成率は37.5%。SNS等で参加を呼びかけたが、参加率は悪く、今後、広報の周知等考える必要がある。 目標値：各20人×2回＝40人 実績値：①9人/②6人＝計15人								
	参加者満足度	3	受講内容としては悪くなく、万葉集を勉強したい熱心な方が参加し充実していたように思われる。								
果	重点対象に対する課題解決つながったか	2	万葉集をテーマに奈良の魅力をアピールしようとしたが、参加率が悪く課題が残る。								
	質の確保・向上につながる工夫がなされたか	3	1回目は旧居コーディネーターが担当、2回目は犬養孝記念館の館長を招き、講座の内容と質を高めた。								
総合評価(自動計算)				2							
参加者や協働相手からの意見				(参加者) *「花が好きです。万葉集の勉強中。巻10まで読みました」(市内・女性・60代) *「まだまだ万葉集、大和を勉強したいと思います」(富山県・女性・60代) 他 (協働者) 元号特需を期待したが、いまいち参加率が伸びなかった。参加率低迷の原因のひとつである広報を、再度、見直し次回につなげたいと思う。							
総括	評価年度の状況と課題				改善案・次年度以降の目標						
	昨年度も定員割れだったが、参加率は今年度の方が悪く、広報不足な点は覆めない。今後、広報戦略を見直す必要があると考えている。また大学の万葉学者に依頼するという案もあるが予算的に考えて厳しい現状がある。講師を含めて、次回につながるよう検討する。				広報としては、SNSだけではなくチラシの配布など積極的な働きが必要であると考えている。講師については、今後、検討し調整する予定である。						
評価											
(奈良市) 定員が少ない事業であるため、数名の参加者数減少でも影響が大きい。アンケートからみると、一定のリピーターがいることが見てとれるが、初めて施設を訪れる人へ向けての広報が課題である。											

奈良市文化振興計画 事業評価シート（令和元年度）

事業名		大和路撮影者		施設名	入江泰吉旧居						
総合計画 該当項目	章	第2章	教育・歴史・文化		文化振興計画 該当項目						
	基本施策	2-05	文化振興								
	施策	2-05-01	文化の振興								
実施形態	単発・継続		事業開始年	平成29年度	実施回数 (今年度)						
日時	4月14日、10月14日		会場	入江泰吉旧居							
目的と内容	写真家・入江泰吉が半生をかけて撮り続けた奈良大和路の魅力を、現在、奈良で活躍している写真家を招き、あらためて奈良の魅力を紐解こうとするものである。										
重点対象 (主なもの 3つまで)	市民	○	市外在住者	○	観光客	○	地域住民		未就学児		
	小中学生		若者(高・大等)		社会人(40歳未満)		社会人(40歳以上)		高齢者		
	子育て世帯		障がい者		在留外国人		訪日外国人				
	その他	()									
重点対象に対する 課題と取り組み	奈良大和路の魅力を入江作品で知ったという方が多いなか、まだまだ知られていない魅力を、現在活躍している写真家の視点からクローズアップし、奈良への関心を高める。講師である写真家の作品を見ながら解説、魅力を紹介する。										
事業費(円)											
歳入											
予算	市費(指定管理料等)	0	その他収入 (事業収入等)	20,000	歳出						
決算	市費(指定管理料等)	0	その他収入 (事業収入等)	11,136	11,136						
事業成果											
アンケートの有無 (事業満足度、職員のホスピタリティ、施設の設備水準、事業を誰かに勧めたいか、の項目を入れたもの。)				有・無	アンケート結果	別紙参照					
指標			評価 (5点満点)	評価内容(件数・アンケート内容等、評価の根拠を記入)							
成	参加者数・参加率の達成度		3	目標値1回につき20人を予定、40人の参加者数に対し、32人。達成率は80%。 目標値: 各日20人×2回=40人 実績値: ①17人+②15人=計 32人							
	参加者満足度		4	入江作品と違った、奈良の魅力を再発見できたと思われる。また講師である写真家と一緒に修験者の方も同席し、修験道の意味と背景を親切丁寧に解説するなど充実した内容であった。							
果	重点対象に対する課題解決つながったか		4	入江作品以外での奈良への魅力のアピールは良かったと思われる。現役の写真家から、奈良の風景や行事などの魅力を語っていただき、理解は深まったと考えている。							
	質の確保・向上につながる工夫がなされたか		4	現在も奈良で活躍し取り組んでいる写真家を招いたことで、まだまだ知られていない魅力を伝えられた。講座の内容と質は維持ができたと思われる。							
総合評価(自動計算)				4							
参加者や協働相手からの意見			(参加者) *「大変良い企画で写真に対する考えがあらたな気持ちになりました」(市内・女性) *「風景に対するあたたかいまなざしが気持ちよかった」(県内・男性) 他 (協働者) 奈良の魅力を伝えるために現役の写真家に登場し語っていただいた。入江作品と一味違った奈良を紹介することができ良かったと考えている。								
総括	評価年度の状況と課題				改善案・次年度以降の目標						
	春と秋の2回、実施したが、残念ながら定員割れとなった。その大きな要因のひとつは、広報であると思われる。講師の関係者をはじめ、もっと広報の周知に努める必要がある。また講師についても話題になっているテーマや写真家を注視しているが、今後は作家の取り上げ方が難しくなると予想される。				現役で活躍されている写真家を招き、新しい奈良の魅力、または再発見につながる作家を紹介する予定である。しかし場合によっては、入江と同世代、また過去の写真家を取り上げて、入江と違った視点で紹介することも含めて考えていきたいと思う。						
評価											
(奈良市) 実績は目標値に及ばず、同施設他事業と同様に集客に課題があることから、施設全体の広報戦略を見直す必要がある。また、同時に企画内容についても、入江作品がそれ以外の写真家に するの、趣旨を明確にしていくことが必要である。											

奈良市文化振興計画 事業評価シート（令和元年度）

事業名		第38回奈良市美術家展		施設名	奈良市美術館		
総合計画 該当項目	章	第2章		教育・歴史・文化		文化振興計画 該当項目	(1)-1・(2)-①・(5)-③
	基本施策	2-05		文化振興			
	施策	2-05-01		文化の振興			
実施形態	単発・ 継続		事業開始年	昭和57年		実施回数 (今年度)	1
日時	令和元年9月28日(土)～10月14日(月・祝)			会場	奈良市美術館		
目的と内容	多くの市民に奈良市美術家協会会員の優れた美術作品を鑑賞していただける場を提供する。 奈良市美術家協会会員が一人一作品7部門約70点の作品が展示される。 また、会期中には各部門の代表者による、作品解説を行う。						
重点対象 (主なもの 3つまで)	市民	レ	市外在住者	観光客	地域住民		未就学児
	小中学生		若者(高・大等)	社会人(40歳未満)	社会人(40歳以上)	レ	高齢者
	子育て世帯		障がい者	在留外国人	訪日外国人		
	その他	()					
重点対象に対する 課題と取り組み	出品者のプロフィール等をキャプションに掲載する。						
事業費(円)							
	歳入			歳出			
予算	市費(指定管理料等)	870,000	その他収入 (事業収入等)	0	870,000		
決算	市費(指定管理料等)	764,590	その他収入 (事業収入等)	0	764,590		
事業成果							
アンケートの有無 (事業満足度、職員のホスピタリティ、施設の設備水準、事業を誰かに勧めたいか、の項目を入れたもの。)				有・無	アンケート結果	別紙参照	
	指標	評価 (5点満点)	評価内容(件数・アンケート内容等、評価の根拠を記入)				
成 果	参加者数・参加率の達成度	3	目標値には届かなかったが、見合った成果が得られた。達成率：96.7% 目標値：1600 実績値：1547				
	参加者満足度	3	大変良かった、良かったの声が多かった。				
	重点対象に対する課題解決つながったか	3	60歳以上の来館者が多かった。				
	質の確保・向上につながる工夫がなされたか	3	奈良市美術家協会の先生方の力作が一同に展示されている。 今回からキャプションに先生方の写真を掲載している				
総合評価(自動計算)		3					
参加者や協働相手からの意見		(参加者) 色んな分野の作品が見れて良かった。 (協働者)					
総括	評価年度の状況と課題			改善案・次年度以降の目標			
	奈良市美術家協会会員の先生方が高齢になり、年々出品作品が少なくなっている。			多くの先生方に出品していただける様に働きかけたい。			
評価							
(奈良市) 奈良市美術家協会との協働で推進している事業である。キャプションに作家写真を掲載するなど、奈良にどういった芸術家がいるかを知ってもらう機会にもなっている。 一方で、協会員の高齢化に伴い、出品作品数が少なくなっているため、協会と相談しながら課題解決の方法を検討したい。							

奈良市文化振興計画 事業評価シート（令和元年度）

事業名		奈良を観る～奈良観光と美術			施設名	奈良市美術館		
総合計画 該当項目	章	第2章	教育・歴史・文化		文化振興計画 該当項目	(1) -① : (2) -①		
	基本施策	2-05	文化振興			(2) -④ : (5) -③		
	施策	2-05-01	文化の振興					
実施形態	単発・ 継続		事業開始年		実施回数 (今年度)	1		
日時	令和元年7月9日(火)～8月12日(月・祝)			会場	奈良市美術館			
目的と内容	近代における奈良観光と美術の関わりを歴史資料や美術作品から観光都市奈良の移り変わりど魅力を再発見しようとするものです。							
重点対象 (主なもの 3つまで)	市民	レ	市外在住者	レ	観光客	地域住民	未就学児	
	小中学生		若者(高・大等)		社会人(40歳未満)	社会人(40歳以上)	高齢者	レ
	子育て世帯		障がい者		在留外国人	訪日外国人		
	その他	()						
重点対象に対する 課題と取り組み	広報宣伝に力を入れて集客増につなげたい							
事業費(円)								
	歳入				歳出			
予算	市費(指定管理料等)	730,000	その他収入 (事業収入等)	315,000	1,045,000			
決算	市費(指定管理料等)	614,894	その他収入 (事業収入等)	113,400	728,294			
事業成果								
アンケートの有無 (事業満足度、職員のホスピタリティ、施設の設備水準、事業を誰かに勧めたいか、の項目を入れたもの。)				有・無		アンケート結果		別紙参照
	指標	評価 (5点満点)	評価内容(件数・アンケート内容等、評価の根拠を記入)					
成	参加者数・参加率の達成度	1	思ったより入館者数が伸びなかった。達成率：38.5%					
			目標値	2300	実績値	886		
果	参加者満足度	3	アンケート調査によると、大変良かったの声が多かった。					
	重点対象に対する課題解決つなげたか	3	重点対象としては、良かった。					
	質の確保・向上につながる工夫がなされたか	3	当館学芸員の企画展であり工夫がなされている。					
総合評価(自動計算)		3						
参加者や協働相手からの意見		(参加者) 奈良の歴史を感じる事が出来た。 (協働者) 入館者数が少なかった。						
総括	評価年度の状況と課題				改善案・次年度以降の目標			
	「奈良を観る」のシリーズであった。入館者には、好評を得たが入館者数が少なかった。				「奈良を観る」シリーズであり、今回のアンケート結果を参考にし参加者の方の要望に応えられる、企画展にしたい。			
評価								
(奈良市) シリーズとして実施している展覧会。観光都市・奈良としての移り変わりを感じられるような展示内容としている。アンケートによると展覧会自体の評価は高いが、入館者数実績が目標に大きく及ばなかったのは、定番事業として実施していることも関係している可能性がある。シリーズとして実施する場合でも新規性の高い企画内容にするなどの工夫が必要である。								

奈良市文化振興計画 事業評価シート（令和元年度）

事業名		奈良市美術館活性化事業 「オープンミュージアムプロジェクト」		施設名	奈良市美術館		
総合計画 該当項目	章	第2章 教育・歴史・文化		文化振興計画 該当項目	(2) - ①・(8) - ①		
	基本施策 施策	2-05 2-05-01 文化の振興					
実施形態	単発・継続		事業開始年	令和元年度		実施回数 (今年度)	1
日時	令和2年1月10日(金)～1月19日(日) (ワークショップは令和元年11月2日)		会場	奈良市美術館 (ワークショップはミ・ナール4階)			
目的と内容	美術館を無料で開放し、子供から大人まで現代芸術の展覧会を通して、日常の見え方や感じ方に変化を与える鑑賞体験を提案します。 また、ワークショップ参加者には、オリジナルキャラクターの創造とアニメーションの仕組みを体験してもらい、制作されたキャラクターアニメーションは作品となって映し出されます。						
重点対象 (主なもの 3つまで)	市民	市外在住者	観光客	地域住民	未就学児	シ	
	小中学生	若者(高・大等)	社会人(40歳未満)	社会人(40歳以上)	高齢者		
	子育て世帯 その他	障がい者	在留外国人	訪日外国人			
重点対象に対する 課題と取り組み	奈良市内の小学校、中学校にチラシを配布し集客増につなげたい。						
事業費(円)							
		歳入			歳出		
予算	市費(指定管理料等)	4,350,000	その他収入 (事業収入等)	0	4,350,000		
決算	市費(指定管理料等)	1,689,300	その他収入 (事業収入等)	0	1,689,300		
事業成果							
アンケートの有無 (事業満足度、職員のホスピタリティ、施設の設備水準、事業を誰かに勧めたいか、の項目を入れたもの。)			有・無	アンケート結果	別紙の通り		
指標		評価 (5点満点)	評価内容(件数・アンケート内容等、評価の根拠を記入)				
成	参加者数・参加率の達成度	4	目標数値以上の来館者であった。達成率：122% 目標値：1500 実績値：1833				
	参加者満足度	4	自分の作ったアニメーションが映って良かった。 綺麗で楽しかったとの声が多かった。				
果	重点対象に対する課題解決つながったか	3	思っていたより、小学生の来館が少なかった。				
	質の確保・向上につながる工夫がなされたか	4	完成度の高い映像の展覧会であった。				
総合評価(自動計算)		4					
参加者や協働相手からの意見		(参加者) 好評であった。 (協働者) 予想以上の来館者数で喜んでいた。 ボランティアさんからは、映像の速さや音響の大きさに驚いておられた。					
総括	評価年度の状況と課題			改善案・次年度以降の目標			
	奈良市美術館では、初めてとなる映像の展覧会であったが、事前にワークショップを行い予想以上の来館者数で子どもから大人まで現代アートを鑑賞体験してもらい多くの好評を得た。 もう少し、子ども向けの作品が有れば良かったかなと思う。			継続事業ではないので、次年度以降は白紙状態である。 子ども達に喜んでもらえる、企画展にしたいと思う。			
評価 (奈良市) 施設を身近に感じてもらうための新規事業。事前のワークショップとの連動制が高く、目標値を超える実績を得ることができた。一方で他事業に比べて経費が高く、同規模で事業を継続する場合は、さらに事業効果を得られる方法を検討する必要がある。							

奈良市文化振興計画 事業評価シート（令和元年度）

事業名		入江泰吉「祈り」展			施設名	入江泰吉記念奈良市写真美術館		
総合計画 該当項目	章	第2章	教育・歴史・文化		文化振興計画 該当項目	(2) - ④		
	基本施策	2-05	文化振興					
	施策	2-05-01	文化の振興					
実施形態	継続		事業開始年	平成4年		実施回数 (今年度)	1回	
日時	平成31年4月13日(土)～ 令和元年6月16日(日)			会場	入江泰吉記念奈良市写真美術館			
目的と内容	心の原風景を追い求めた入江泰吉の作品を、市民および観光客の方々にご鑑賞いただき写真を通して奈良を感じていただく企画展。本展は「祈り」をテーマに、奈良の社寺風景や仏像の写真を紹介する。							
重点対象 (主なもの 3つまで)	市民	○	市外在住者	○	観光客	○	地域住民	○
	小中学生		若者(高・大等)		社会人(40歳未満)		社会人(40歳以上)	
	子育て世帯		障がい者		在留外国人		訪日外国人	
	その他	()						
重点対象に対する 課題と取り組み	従来の入江泰吉ファンのみならず県外からお越しの観光客の方々に周知できるようSNSなどを活用した広報を行う。							
事業費(円)								
				歳入		歳出		
予算	市費(指定管理料等)	468,000	その他収入 (事業収入等)	0	468,000			
決算	市費(指定管理料等)	437,000	その他収入 (事業収入等)	0	437,000			
事業成果								
アンケートの有無 (事業満足度、職員のホスピタリティ、施設の設備水準、事業を誰かに勧めたいか、の項目を入れたもの。)				有	アンケート結果	別紙参照		
指標			評価 (5点満点)	評価内容(件数・アンケート内容等、評価の根拠を記入)				
成 果	参加者数・参加率の達成度		3	目標値4,000人の観覧者数に対し、3,748人の観覧者数で、達成率は93.7%であった。 目標値：4,000人 実績値：3,748人				
	参加者満足度		3	アンケートを実施し、37名から回答があった中、約89.2%の方から展示内容について「良い」以上の回答が得られた。				
	重点対象に対する課題解決つながったか		4	Facebook等を活用し展覧会を周知することができた。				
	質の確保・向上につながる工夫がなされたか		4	学芸員の作品解説を定期的に行い、入江作品の魅力を伝えることができた。また作品への関心を高めることにつながった。				
総合評価(自動計算)			4					
参加者や協働相手からの意見			(参加者) アンケートより *入江先生の写真は歴史を越え、世界も広がっていくものがあります。先生の写真は動かない静止画だけど、写真を見て、そこに入っていける(作品)魅力が存分に無限にありました。また観たいです。(奈良・女性・50歳代) (協働者) 協働者なし					
総括	評価年度の状況と課題				改善案・次年度以降の目標			
	入江泰吉作品の展覧会は、開館以来28年間テーマを替えて開催しているが、作品数も限られているためマンネリ化もいたしかたないところがある。学芸員による工夫で見せ方や展示方法を替えるなどして、飽きのこない、毎回新しい発見がある展覧会を目指している。またいつまでも入江作品を鑑賞できる展示構成にしている。				改善するところは特に無いと考えるが、飽きのこない展示構成を心がけて新たな客層を獲得しつつ、長年の入江泰吉ファンにも新しい発見がある展覧会を開催する。			
評価 (奈良市) 施設の主たる展覧会として、目標値に近い来館者実績を得ることができ、またアンケートによる満足度も高い。マンネリ化という部分も自己評価としてあるが、いつでも入江作品を見ることが出来る環境を施設として準備していくことは施設目的として重要であるとする。								

奈良市文化振興計画 事業評価シート（令和元年度）

事業名		石内都「布の来歴ーひろしまから」展		施設名	入江泰吉記念奈良市写真美術館				
総合計画 該当項目	章	第2章	教育・歴史・文化		文化振興計画 該当項目	(2) - ①			
	基本施策 施策	2-05 2-05-01	文化振興 文化の振興						
実施形態	継続		事業開始年	平成4年		実施回数 (今年度)	1回		
日時	令和元年6月22日(土)～9月1日(日)		会場	入江泰吉記念奈良市写真美術館					
目的と内容	世界的写真賞であるハッセルブラッド賞を受賞し、世界で活躍する女性写真家・石内都の写真展。本展は石内都が生涯のテーマとする広島原爆遺品から「布」にスポットをあて紹介する。								
重点対象 (主なもの 3つまで)	市民	○	市外在住者	○	観光客	地域住民	○	未就学児	
	小中学生 子育て世帯 その他		若者(高・大等) 障がい者		社会人(40歳未満) 在留外国人	社会人(40歳以上) 訪日外国人		高齢者	
重点対象に対する 課題と取り組み	展示テーマが「布」で、女性視点の繊細なタッチで撮影された作品であるため40歳以上の女性を主な重点対象とする。メディアへの露出が増えるよう、積極的に報道機関への広報を行う。								
事業費(円)									
歳入									
予算	市費(指定管理料等)	1,496,000	その他収入 (事業収入等)	0	歳出				
決算	市費(指定管理料等)	1,580,000	その他収入 (事業収入等)	0	1,580,000				
事業成果									
アンケートの有無 (事業満足度、職員のホスピタリティ、施設の設備水準、事業を誰かに勧めたいか、の項目を入れたもの。)			有	アンケート結果	別紙参照				
指標		評価 (5点満点)	評価内容(件数・アンケート内容等、評価の根拠を記入)						
成 果	参加者数・参加率の達成度	2	目標値5,000人の観覧者数に対し、3,100人の観覧者数で、達成率は62%であった。 目標値: 5,000人 実績値: 3,100人						
	参加者満足度	3	アンケートを実施し、41名から回答があった中、約92.7%の方から展示内容について「良い」以上の回答が得られた。						
	重点対象に対する課題解決につながったか	2	当初の予想通り当該年度に開催した展覧会の中では圧倒的に女性観覧者が多かった。女性グループが多かったが、観覧者数の増加には繋がらなかった。						
	質の確保・向上につながる工夫がなされたか	4	出品作家本人によるギャラリートークを開催し、撮影秘話や作品に対する思いなど、より詳しい解説を観覧者に提供することができた。						
総合評価(自動計算)			3						
参加者や協働相手からの意見			(参加者) アンケートより * 石内都さんのチラシの写真をみて興味を持ちました。すごくうたえるものが強くて観に来てよかったです。(奈良・女性・40歳代) (協働者) 出品作家より * 写真家にとって作品を発表できる場があることは最高の幸せ。奈良の写真美術館は特別な意義のある美術館である。						
総括	評価年度の状況と課題			改善案・次年度以降の目標					
	出品作家が出演するイベントは注目度も高く、通常の2～3倍の参加者数となる。特にギャラリートークには大勢の聴講者が参加するが、イベント1回分の予算確保が精いっぱいである。ギャラリートークの回数を増やしたり、その他のイベントを開催するなどの要望が多く寄せられているので、今後検討していきたい。			まずは予算確保の問題を解決する。ただし、指定管理料は限りがあるため、補助金・助成金等の獲得を目指す。					
評価									
(奈良市) 入江氏以外の写真家による作品展は目標値が立てづらい部分があるが、適切な目標値を設定していく必要がある。また作家によるギャラリートーク等の展覧会外のイベントについても積極的に実施していくことで来館者の増加につながると思う。									

奈良市文化振興計画 事業評価シート（令和元年度）

事業名		鬼海弘雄「PERSONA—最終章—」展		施設名	入江泰吉記念奈良市写真美術館		
総合計画 該当項目	章	第2章	教育・歴史・文化		文化振興計画 該当項目	(2) - ①	
	基本施策	2-05	文化振興				
	施策	2-05-01	文化の振興				
実施形態	継続		事業開始年	平成4年		実施回数 (今年度)	1回
日時	令和元年9月7日(土)～10月30日(日)			会場	入江泰吉記念奈良市写真美術館		
目的と内容	国内外で実績があり、優れた写真作品を発表する写真家・鬼海弘雄の写真展。ライフワークである浅草寺でのスナップ写真シリーズで展示構成。写真集として世界的に高い評価を得ている『PERSONA』シリーズから『PERSONA—最終章—』を中心に紹介する。						
重点対象 (主なもの 3つまで)	市民	○	市外在住者	○	観光客	地域住民	未就学児
	小中学生		若者(高・大等)		社会人(40歳未満)	○ 社会人(40歳以上)	高齢者
	子育て世帯		障がい者		在留外国人	訪日外国人	
	その他 ()						
重点対象に対する 課題と取り組み	一度観たら強く印象に残る作品群から、口コミでの情報拡散を期待する。特に若年層によるSNSでの情報発信を促し、周知につなげる。						
事業費(円)							
	歳入				歳出		
予算	市費(指定管理料等)	1,490,000	その他収入 (事業収入等)	0	1,490,000		
決算	市費(指定管理料等)	1,256,000	その他収入 (事業収入等)	0	1,256,000		
事業成果							
アンケートの有無 (事業満足度、職員のホスピタリティ、施設の設備水準、事業を誰かに勧めたいか、の項目を入れたもの。)				有	アンケート結果	別紙参照	
	指標	評価 (5点満点)	評価内容(件数・アンケート内容等、評価の根拠を記入)				
成	参加者数・参加率の達成度	4	目標値3,600人の観覧者数に対し、3,903人の観覧者数で、達成率は108.4%であった。 目標値: 3,600人 実績値: 3,903人				
	参加者満足度	3	アンケートを実施し、56名から回答があった中、約92.9%の方から展示内容について「良い」以上の回答が得られた。				
果	重点対象に対する課題解決つながったか	4	展覧会に対する評価が高く、情報誌や専門誌等に展覧会を取り上げてもらうことが比較的多かった。そのため、多くの方々に展覧会および写真美術館を周知することができた。				
	質の確保・向上につながる工夫がなされたか	4	出品作家本人によるギャラリートークを開催し、撮影秘話や作品に対する思いなど、より詳しい解説を観覧者に提供することができた。				
総合評価(自動計算)				4			
参加者や協働相手からの意見				(参加者) アンケートより *鬼海さんの作品を拝見したくて来館しました。一言では言い表せないような深い気持ちになりました。同郷の山形出身ということで嬉しいです。これからも作品を楽しみにしています。(大阪・女性・20歳代) (協働者) 出品作家より 奈良で、入江泰吉さんの美術館で展覧会ができたことを光栄に感じます。			
総括	評価年度の状況と課題			改善案・次年度以降の目標			
	出品作家が出演するイベントは注目度も高く、通常の2～3倍の参加者数となる。特にギャラリートークには大勢の聴講者が参加するが、イベント1回分の予算確保が精いっぱいである。ギャラリートークの回数を増やしたり、その他のイベントを開催するなどの要望が多く寄せられているので、今後検討していきたい。			まずは予算確保の問題を解決する。ただし、指定管理料は限りがあるため、補助金・助成金等の獲得を目指す。			
評価							
(奈良市) 入江氏以外の写真家による作品展は目標値が立てづらい部分があるが、適切な目標値を設定していく必要がある。また作家によるギャラリートーク等の展覧会外のイベントについても積極的に実施していくことで来館者の増加につながると思われる。							

奈良市文化振興計画 事業評価シート（令和元年度）

事業名		新・学園前寄席「桂ざこば 一門会」		施設名	奈良市西部会館市民ホール	
総合計画 該当項目	章	第2章	教育・歴史・文化	文化振興計画 該当項目	(2) 芸術鑑賞等広く市民が文化に接する機会の拡充に関すること	
	基本施策	2-05	文化振興			
	施策	2-05-01	文化の振興			
実施形態	単発・ 継続	事業開始年	2018年	実施回数 (今年度)	1回	
日時	2019年4月20日(土)		会場	奈良市西部会館市民ホール		
目的と内容	奈良市西部会館市民ホールが地域にある身近な文化芸術発信拠点としての印象浸透を目的に、地域の方に質の高い日本伝統文化芸術の一つである上方落語に接する機会の提供。					
重点対象 (主なもの 3つまで)	市民	<input type="radio"/>	市外在住者	<input type="radio"/>	観光客	<input type="radio"/>
	小中学生		若者(高・大等)		社会人(40歳未満)	<input type="radio"/>
	子育て世帯		障がい者		社会人(40歳以上)	
	その他		()		在留外国人	
重点対象に対する 課題と取り組み	地域住民の50歳以上を対象とするため、当該層の接触機会が多いと想定される媒体を活用しての告知活動が課題と考える。					
事業費(円)						
	歳入			歳出		
予算	市費(指定管理料等)	0	その他収入 (事業収入等)	1,300,000	1,300,000	
決算	市費(指定管理料等)	0	その他収入 (事業収入等)	1,354,120	1,354,120	
事業成果						
アンケートの有無 (事業満足度、職員のホスピタリティ、施設の設備水準、事業を誰かに勧めたいか、の項目を入れたもの。)			<input checked="" type="radio"/> 有	アンケート結果	別紙添付	
	指標	評価 (5点満点)	評価内容(件数・アンケート内容等、評価の根拠を記入)			
成 果	参加者数・参加率の達成度	4	入場者目標270名に対し、入場者数が302名であったことから達成できたと考える。 目標値: 270 実績値: 302			
	参加者満足度	5	ご観覧アンケートの回答より、大変満足が42%、満足が53%、普通が5%、やや不満と不満が0%の結果より達成できたと考える。			
	重点対象に対する課題解決つながったか	5	ご観覧アンケートの回答より、50歳代以上が94%(70歳代以上が56%、60歳代が30%、50歳代が8%)、地域住民の来場者が93.5%(学園前周辺が44%、奈良市が41%、生駒市が8.5%)の結果から重点対象に対し目標達成できたと考える。			
	質の確保・向上につながる工夫がなされたか	4	ご観覧アンケートの回答より、職員の対応について大変満足が18%、満足が61%であった。また、本日の催事を誰かに勧めたいかは89%であったことから、一定程度の達成ができたと考えられる。			
総合評価(自動計算)			5			
参加者や協働相手からの意見			(参加者) ・初めての落語でしたがとても楽しく過ごせました。来場しやすい場所なので色々な催し楽しみにしています。 ・声もよく聞き取れて楽しく過ごせました。涙が出るほど笑わせてもらいました。 ・ホールの大きさも落語界にちょうど良く、今後は関西落語以外もお願いします。 (協働者) ・落語をするのにちょうどよい大きさのホールなので、落語家は気持ちよく演じられる。			
総括	評価年度の状況と課題			改善案・次年度以降の目標		
	50歳以上の来場者が94%、地域住民の来場者(学園前周辺、奈良市内、生駒市)が93.5%、西部会館内チラシ&ポスター、市内他施設配架チラシ、新聞折込、口コミ、奈良市広報誌での公演認知が84%の結果であったことより、奈良市西部会館市民ホールが地域にある身近な文化芸術発信拠点としての印象浸透を目的に、地域の方に質の高い日本伝統文化芸術に接する機会の提供ができたと考えられる。			アンケートからも落語公演を希望される回答が多く、自由記述でも同様の内容が見られた。そのことから、来年度企画事業案に落語公演を計画する方向で調整する。また、GAKUTOMO会員(友の会)へのDM、しみんだよりへの情報掲載、および新聞折込での告知により、重点対象に対し一定数の来場が見込めると推測する。一方、上方落語の桂米朝一門以外や江戸落語なども提供することでより、多くの方に日本の伝統文化芸術に接する機会づくりを目指したいと考える。		
評価 (奈良市) 落語公演については、実施の希望が多い分野であり、集客が見込みやすい事業であるため、アンケート等による参加者の反応を確認しながら実施している。						

奈良市文化振興計画 事業評価シート（令和元年度）

事業名		和楽器ユニットおとぎ「風雅草紙コンサート」		施設名	奈良市西部会館市民ホール		
総合計画 該当項目	章	第2章	教育・歴史・文化	文化振興計画 該当項目	(2) -芸術鑑賞等広く市民が文化に接 する機会の拡充に関すること		
	基本施策 施策	2-05 2-05-01	文化振興 文化の振興				
実施形態	単発・継続		事業開始年	2019年	実施回数 (今年度)	1回	
日時	2019年5月6日（月・祝）		会場	奈良市西部会館市民ホール			
目的と内容	奈良市西部会館市民ホールが地域にある身近な文化芸術発信拠点としての印象浸透を目的に、地域の方に質の高い日本 伝統文化芸術の一つである和楽器（筑前琵琶、箏、尺八、胡弓等）と乙女文楽に接する機会の提供。						
重点対象 (主なもの 3つまで)	市民	市外在住者	〇	観光客	地域住民	〇	未就学児
	小中学生	若者（高・大等）		社会人（40歳未満）	社会人（40歳以上）	〇	高齢者
	子育て世帯	障がい者		在留外国人	訪日外国人		
	その他	（ ）					
重点対象に対する 課題と取り組み	集客目標達成のため、和楽器と乙女文楽との創作舞台がイメージされやすい告知展開と、地域住民はもとより県外から の来場機械創出を含め、出演者との連携による効果的な告知広報が課題と考える。						
事業費（円）							
	歳入			歳出			
予算	市費（指定管理料等）	〇	その他収入 (事業収入等)	1,000,000		1,000,000	
決算	市費（指定管理料等）	〇	その他収入 (事業収入等)	1,000,000		1,000,000	
事業成果							
アンケートの有無 (事業満足度、職員のホスピタリティ、施設の設備水準、事業を 誰かに勧めたいか、の項目を入れたもの。)			有・無	アンケート結果	別紙添付		
	指標	評価 (5点満点)	評価内容（件数・アンケート内容等、評価の根拠を記入）				
成 果	参加者数・参加率の達成度	4	入場者目標400名に対し、入場者数が485名であったことから達成できたと考える。 目標値：400 実績値：485				
	参加者満足度	5	ご観覧アンケートの回答より、大変満足が66%、満足が34%、普通とやや不満と不満が0%の結果よ り達成できたと考える。				
	重点対象に対する課題解決つながったか	5	ご観覧アンケートの回答より、40歳代以上が97%（70歳代以上が51%、60歳代が28%、50歳代が 15%、40歳代3%）、地域住民の来場者が34%（学園前周辺が17%、奈良市が10%、生駒市が 7%）、市外在住者が66%（奈良県内6%、京都府内7%、大阪府内41%、兵庫県内10%、他2%） の結果から重点対象に対し目標達成できたと考える。				
	質の確保・向上につながる工夫がなされたか	5	ご観覧アンケートの回答より、職員の対応について大変満足が29%、満足が55%であった。また、本 日の催事を誰かに進めたいかは96%であったことから達成できたと考える。				
総合評価（自動計算）		5					
参加者や協働相手からの意見		<p>(参加者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駅から近いのでわかりやすく便利でよかった。料金も安くて演奏時間の長さも良かった。大変満足して聴かせて頂 きました。 ・人形の動きに感動です。ありがとうございました。 ・チケット購入に座席指定できないでしょうか。 <p>(協働者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出来るだけ多くの方に見ていただきたく2回公演としたが、かなりの労力が必要であった。 ・ホール側と出演者側でそれぞれのルートで告知宣伝ができ、設定以上にチケット販売につながり安心した。 					
総括	評価年度の状況と課題			改善案・次年度以降の目標			
	40歳以上の来場者が97%、地域住民の来場者が34%、市外在住者が66%の結果 であったことより、重点対象に対する取り組みは一定達成できたと考察する。さらに 市外在住者の来場率が多いことから、新たな層に対し奈良市西部会館市民ホールの認 知機会につながったと考える。また、ご観覧アンケート年間集計より、回答者の 10%が和楽器公演を希望されており、その要望にお応えできた機会であった。			本公演以外のご観覧アンケートでも座席指定希望のご意見があり、落語公演のみ座 席指定としていたが、一定客が見込める公演に関しては、来年度よりチケットの座 席指定を検討する。			
評価							
(奈良市) 奈良市西部の立地やアクセスの良さを活かして、地域住民のみならず、市外在住者に対する取り組みも一定の成功をみせている。伝統文化関係の事業では集客に苦労するものもあるが、コ ミ等により目標値を超える来場者実績を得ることができた。							

奈良市文化振興計画 事業評価シート（令和元年度）

事業名		学園前アートフェスタ2019 at 学園前ホール		施設名	奈良市西部会館市民ホール		
総合計画 該当項目	章	第2章 教育・歴史・文化		文化振興計画 該当項目	(5) -文化を担う人材の育成に関する こと		
	基本施策	2-05 文化振興					
	施策	2-05-01 文化の振興					
実施形態		単発 <input checked="" type="radio"/> 継続 <input type="radio"/>	事業開始年	2015年		実施回数 (今年度)	1回
日時		2019年11月9日(土)～10日(日)		会場	奈良市西部会館市民ホール		
目的と内容		学園前街育プロジェクト実行委員会が主催する「学園前アートフェスタ2019」の一事業として、学園前ホールを活用し周辺地域の園児・小学生・中学生を中心に、住民参加型ステージプログラムの実施運営を担うと共に、次世代を担う子どもたちへの舞台出演機会を提供することにより、新たな地域若手アーティストの発掘および育成機会の創出を目的とする。					
重点対象 (主なもの 3つまで)	市民	市外在住者	観光客	地域住民	<input type="radio"/>	未就学児	<input type="radio"/>
	小中学生	<input type="radio"/> 若者(高・大等)	社会人(40歳未満)	社会人(40歳以上)	<input type="radio"/>	高齢者	<input type="radio"/>
	子育て世帯	障がい者	在留外国人	訪日外国人	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>
その他		()					
重点対象に対する 課題と取り組み		学園前アートフェスタがコンセプトとする「街育」に関して、持続可能な地域づくりには次世代を担う子どもたちも重要なプレーヤーであることの認識を、学園前街育プロジェクト実行委員会内で共通理解図と共に、周辺の子ども園・小中学校に学園前アートフェスタへの協力体制づくりの理解ならびに出演に関する調整が課題と考える。					
事業費(円)							
		歳入			歳出		
予算	市費(指定管理料等)	0	その他収入 (事業収入等)	70,000		70,000	
決算	市費(指定管理料等)	0	その他収入 (事業収入等)	65,000		65,000	
事業成果							
アンケートの有無 (事業満足度、職員のホスピタリティ、施設の設備水準、事業を誰かに勧めたいか、の項目を入れたもの。)			<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	アンケート結果	別紙添付		
指標		評価 (5点満点)	評価内容(件数・アンケート内容等、評価の根拠を記入)				
成	参加者数・参加率の達成度	4	入場者目標600名に対し、入場者数が686名であったことから達成できたと考える。 目標値 600 実績値: 686				
	参加者満足度	5	ご観覧アンケートの回答より、大変満足が83%、満足が17%、普通とやや不満と不満が0%の結果より達成できたと考える。				
果	重点対象に対する課題解決つながったか	4	ご観覧アンケートの回答より、他の公演ではほぼ回答のなかった10歳代以下が16%(10歳代未満が4%、10歳代が12%)、地域住民の来場者が98%(学園前周辺が76%、奈良市が20%、生駒市が2%)の結果から重点対象に対し一定程度の達成できたと考える。				
	質の確保・向上につながる工夫がなされたか	4	ご観覧アンケートの回答より、職員の対応について大変満足が43%、満足が30%であった。また、本日の催事を誰かに勧めたいかは87%であったことから、一定程度の達成ができたと考え。				
総合評価(自動計算)			4				
参加者や協働相手からの意見		(参加者) ・地域の子どもたち、若者たちのお姿に励まされます。ありがとうございます。 ・アートフェスタの認知度が低いと思うので、もっと広報に力を入れて会場を満席にしてみてください。 ・とても力があってダイナミックだった。とても良かった。今度からの演奏も楽しみです。 (協働者) ・学園前こども園：来年も是非出演したい。 ・奈良女子大学付属小学校：子供たちにはとても良い機会を提供していただいた。来年も実施されるなら出場を検討する。 ・伏見中学校ギター・マンドリン部：しっかりとしたホールで演奏でき、緊張したが楽しかった。					
評価年度の状況と課題			改善案・次年度以降の目標				
総括		地域の子どもたちに対し、学園前ホールの認知ならびに日頃の活動成果を舞台で発表するにより、地域文化の人材育成創出機会につなげたいとの目的から、9月初旬に小中学校へ訪問・説明を行った。出場調整に各学校共苦しいいただき、各校長のご理解と、ご担当教員のご尽力で、子ども園1園、小学校1校、中学校4校の出演につながった。現代アートで展開する学園前アートフェスタと、地域プレーヤーの一つである子どもたちの創意工夫や若い力が輝く舞台との組み合わせにより、前年度以上に相互の連携度合いや注目度が向上したと考える。		地域の小中学校に対し、次年度の日程を含めた実施概要の説明を2020年4月中に実施する。また、吹奏楽等の搬入出物の多いものに対し、安全管理を徹底した搬入ルート対策について検討する。			
評価							
(奈良市)							
地域主体で実施している事業に施設として参画している。今年度は地域の人材育成へつなげるために学校園の参加を主とすることで、地域のイベントのなかで若者の参加という部分で貢献することができたと考え。							

奈良市文化振興計画 事業評価シート（令和元年度）

事業名		庭園講座・庭園研究講座		施設名	文化振興課名勝大乗院庭園文化館
総合計画 該当項目	章	第2章	教育・歴史・文化		文化振興計画 該当項目
	基本施策	2-05	文化振興		
	施策	2-05-01	文化の振興		
実施形態	単発・ 継続	事業開始年	平成23年	実施回数 (今年度)	庭園講座17,18回目 庭園研究講座7回目
日時	庭園講座5/19、11/3 庭園研究講座10/6		会場	大乗院庭園文化館内	
目的と内容	中世の名勝庭園文化施設として日本の庭園文化を紹介する講座を開催したい、当庭園の理解を深めて誘客を図るとともに新しい庭園研究などの情報を提供して奈良の庭園文化の紹介に繋げたい。				
重点対象 (主なもの 3つまで)	市民	<input type="radio"/>	市外在住者	<input type="radio"/>	観光客
	小中学生		若者(高・大等)		社会人(40歳未満)
	子育て世帯		障がい者		社会人(40歳以上)
	その他	(在留外国人
重点対象に対する 課題と取り組み	受講者の年齢層は中高年の方が多いが30~40代の方が増えてきている。40歳未満では造園に関係の方を見込みたい。講師の方でフランス生まれの建築・庭園研究者なので在留外国人の受講も期待したい。				
事業費(円)					
		歳入		歳出	
予算	市費(指定管理料等)	45,000	その他収入 (事業収入等)	36,000	81,000
決算	市費(指定管理料等)	34,022	その他収入 (事業収入等)	32,800	66,822
事業成果					
アンケートの有無 (事業満足度、職員のホスピタリティ、施設の設備水準、事業を誰かに勧めたいか、の項目を入れたもの。)		<input checked="" type="radio"/> 有・無		アンケート結果	庭園講座：回収率2回平均80%、また参加したい89% 庭園研究講座：回収率91%、また参加した居88%
指標		評価 (5点満点)	評価内容(件数・アンケート内容等、評価の根拠を記入)		
成 果	参加者数・参加率の達成度	3	庭園講座：定員60人(目標48人)(2回分)受講者数55人達成率92% 定演研究講座：定員30人受講者数32人達成率100% 目標値：受講者数③講座計72人(1回24人) 実績値：87人		
	参加者満足度	4	庭園講座：アンケートの回収率(80%)が高く、感想、意見など多くいただいたことを評価したい。受講意欲として「また参加したい」が91%を得た。定演研究講座：アンケート回収率91%最も高く受講後の感想で庭園文化の再発見が多く書かれている。		
	重点対象に対する課題解決つながったか	4	庭園講座：年齢構成として20~30台9%40~50台33%で幅広い構成となった。庭園研究講座：定員を超えた応募の中で奈良県以外の方が31%を占め、20~30代21%40~50代の方が38%となり、今までにない幅広い構成となった。		
	質の確保・向上につながる工夫がなされたか	5	庭園講座：奈良の作庭家として活躍の講師に9年間継続、質の高い講座に感謝。庭園研究講座：奈文研の協力の下で今年度は森氏の音声映像と弟子である作庭家の印象を交えて森氏の実像に迫った。		
総合評価(自動計算)		4			
参加者や協働相手からの意見		<p>(参加者)庭園講座：松の特性など素人にも解り易く説明頂いた。赤松黒松の違いがよく分かった。過去の講座の概要説明が参考になった。とてもよかった、実際に庭の見学も行きたい。庭園の仕事なので講座内容が役立っている。庭園研究講座：森先生の魅力を庭師の声を通して聴けたことが良かった。ビデオ制作の努力に頭が下がります。人物に焦点を当てた切り口が良かった。森さんの「庭は地形」という考えに感銘した。庭は地形・石、樹木、水に目が行くが本当はそれらによってつくられた空間を感じ取るのだと思わされた。</p> <p>(協働者)庭園講座は9年前から牧岡氏にお世話になっている。本当に快く引き受けて下さることに感謝のみです。庭園研究講座は7年前に奈文研にお願いしていて、一年毎に講師の選択から打ち合わせにお願いしていただき、特に今年は前年に続いて同じ講師で去年は森氏の作庭現場での講演で好評を得て、今回も斬新な内容で発表できたことにとても喜んでいただいた。</p>			
総括	評価年度の状況と課題		改善案・次年度以降の目標		
	庭園講座：年2回 今年度第17回、第18回を実施 講師作庭家 牧岡一先生 庭園材料のテーマの中で受講者に身近な樹木が今年度のテーマ「樹木その1 松」「樹木その2 落葉樹」回を重ねるにつれて専門的になってきたところはあるが庭園への興味が大きくなっていることを受講者から感じられる。庭園研究講座：年1回 今年度第7回目、「昭和の作庭記」講師マレス・エマニュエル氏(奈文研関係者)当庭園の研究者でもある森蘊の研究をされ、今回は森氏の映像と3人の弟子でもある作庭家の声を交えての講座で斬新さを感じた。		庭園講座：次年度は「樹木その3 常緑樹」を予定している。これで一区切りつので講座履歴をたどったり、庭園の見学などを計画していきたい。庭園研究講座、文化サロンについては、当庭園管理団体(公財)日本ナショナルトラストの下で奈良文化財研究所が平成7年から19年の発掘調査の成果により整備が進む中でこの度「名勝旧大乗院庭園発掘調査報告書」が奈文研から刊行されたので今後はこの報告書に沿った講座や文化サロンが企画できる。		
評価					
<p>(奈良市)</p> <p>庭園文化について紹介・解説を行う講座として、庭園に魅力を感じられる方が多く受講されている。比較的にリピーターが多い事業であるため、新規に参加したい方も気軽に楽しめるような内容の工夫が必要である。</p>					

奈良市文化振興計画 事業評価シート（令和元年度）

事業名		各種お茶会の開催		施設名	文化振興課 名勝大乗院庭園文化館			
総合計画 該当項目	章	第2章	教育・歴史・文化	文化振興計画 該当項目	(2)-④、(14)-①			
	基本施策	2-05	文化振興					
	施策	2-05-01	文化の振興					
実施形態	単発 継続	事業開始年	平成22年	実施回数 (今年度)	茶会 年7回			
日時	みどり会4/29、9/17 庭園観賞茶会6/10、11 月予定 燈花会茶会8/10、11 観月の夕茶会9/ 24		会場	茶会：館内和茶室				
目的と内容	庭園と深い関係のお茶会を実施する。当文化館のお茶室を有効活用する。幻想的な燈花会とお茶会を同時開催する。またいにしへのお庭の催しとして観月の夕茶会を行いお茶会を同時開催する。（共催）							
重点対象 (主なもの 3つまで)	市民	<input type="radio"/>	市外在住者	<input type="radio"/>	地域住民	<input type="radio"/>	未就学児	<input type="radio"/>
	小中学生		若者（高・大等）		社会人（40歳未満）		社会人（40歳以上）	
	子育て世帯		障がい者		在留外国人		訪日外国人	<input type="radio"/>
	その他							
重点対象に対する 課題と取り組み	外国人のお客を増やす、催しチラシに手書き英文を入れて奈良県ビジターズビューロー、支援センターのほか観光案内所に配置する。チラシの追加補充を行う。							
事業費（円）								
予算	歳入			歳出				
	市費（指定管理料等）	42000 (観月の夕茶会は除く)	その他収入 (事業収入等)	90000 (観月の夕茶会は除く)				132,000
決算	歳入			歳出				
	市費（指定管理料等）	47,988	その他収入 (事業収入等)	101,500				149,488
事業成果								
アンケートの有無 (事業満足度、職員のホスピタリティ、施設の設備水準、事業を誰かに勧めたいか、の項目を入れたもの。)			<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	アンケート結果		庭園鑑賞お茶席でアンケートを実施 回収率46%、奈良市内63%県外27%、とても良かった83%良かったを含め96%		
指標		評価 (5点満点)	評価内容（件数・アンケート内容等、評価の根拠を記入）					
成 果	参加者数・参加率の達成度	4	春と秋の庭園鑑賞お茶会は特に盛況で集客数予算比、前年比で155%を得た。みどり会お茶会集客数111%、観月の夕茶会のお茶会参加者数天気にも恵まれて142%、燈花会茶会は前年補113%◎だったが予算比では81%と厳しかった。全体で予算比115%と好調でした。 目標値：全体のお茶会参加者712人 実績値：819人					
	参加者満足度	4	お茶会の印象：とても良かった83%、良かったを含め96%、参加料：（500円）安い36%、普通64%、当館スタッフの対応：とても良かった64%良かったを含め96%、また参加したい：93%、紹介したい89%					
	重点対象に対する課題解決つながったか	4	一にも二にもチラシの配布：インバウンドに対して英語を付記して観光案内所、外国人支援センター、県ビジターズビューローに配布とチラシの再配布を行った。結果として集客に繋がったと思われる。					
	質の確保・向上につながる工夫がなされたか	5	ほとんどボランティア対応のお茶会スタッフの掛け軸、お花、季節の和菓子、お茶碗の選定までを含めたおもてなしの気配りでお客様に対応できている。感謝しています。					
総合評価（自動計算）		4						
参加者や協働相手からの意見		<p>（参加者）落ち着いた雰囲気、心豊かなひと時を過ごせた。お庭の散策ができてすばらしかった。季節感のあるお花とお軸すべてが良かった。とても美しい景色とおいしいお菓子に満足。お茶碗素敵でした。外でのお茶席の時、暖かくなるグッズがあったらよかった（ホットタオルなど）。最高の時間でたよありがとうございました。お庭の紅葉、景色とても素敵でした。また来年もあれば参加したい。</p> <p>（協働者）庭園鑑賞お茶席、観月の夕茶、燈花会などの有料茶会はスタートから10年お世話になっており、いつも気配りいただき、快く対応いただいている。特に今年は今までの集客を大きく超えることができ、大変忙しくなる中で多くなったことを喜んでいただけた。みどり会の無料茶会は長きにわたりお世話になり、オリンピックまではとおっしゃっていますのであと1年で終わる予定となっています。今年度は前年の120%のお客様を迎えることを喜んでいただけた。</p>						
総括	評価年度の状況と課題			改善案・次年度以降の目標				
	特に春と秋に開催の庭園鑑賞お茶会は庭園の季節的な魅力に直接に繋がる事業として位置づけられる一方で参加者数で今迄予算前後の集客に留まり苦戦してきたが、今年度はチラシの配布方法とチラシに英語を手書きで付記したことが結果につながったと思われるので、手間がかかるが継続していきたい。			集客の為にはしみんだより、JR奈良駅サイネージ配信をベースに今年度行ってきたチラシの配布方法が功を奏するか確認するために次年度も継続して結果を追跡したい。ベースは集客のある観光案内所に適宜再配布を行う事、英語を付記する、事業以外の庭園の案内チラシの配布も同時に行っていく。				
評価								
<p>（奈良市）</p> <p>庭園の魅力を発信するとともに、伝統文化の体験が可能な事業。施設の特性上、観光客も視野に入れて広報を実施しており、アンケートによれば県外からの参加が27%と一定の成果をあげることができていると考える。</p>								

奈良市文化振興計画 事業評価シート (令和元年度)

事業名		庭園・館内コンサートの実施		施設名	文化振興課名勝大乗院庭園文化館		
総合計画 該当項目	章	第2章	教育・歴史・文化		文化振興計画 該当項目	(1)-①、(2)-①、④	
	基本施策	2-05	文化振興				
	施策	2-05-01	文化の振興				
実施形態	単発・ 継続		事業開始年	平成23年4月	実施回数 (今年度)	ジョイントコンサート2回(13,14回 目) フルートコンサート1回(3回目)	
日時	「庭園と奈良と」ジョイントコンサート「4/7、 11/17 フルートコンサート4/21		会場	館内のエントランスホールまたは和茶室			
目的と内容	誘客と身近な音楽の楽しさを提供して庭園に接する機会としたい。フォーク、民謡などともに歌い聴くジョイントコンサートを2回、著名なクラシックや映画音楽などのフルートコンサートを1回実施する。そのほかに奈良県主催のムジークフェストの会場に庭園を含めて誘致を図りたい。						
重点対象 (主なもの 3つまで)	市民	○	市外在住者	観光客	○	地域住民	未就学児
	小中学生		若者(高・大等)	社会人(40歳未満)		社会人(40歳以上)	高齢者
	子育て世帯		障がい者	在留外国人		訪日外国人	○
	その他	()					
重点対象に対する 課題と取り組み	チラシ等を各文化施設のほかに観光案内所を中心に配置する。追加の配置、特に催し日の近日の配置を重点にする。						
事業費(円)							
				歳入		歳出	
予算	市費(指定管理料等)	57,000	その他収入 (事業収入等)	0	57,000		
決算	市費(指定管理料等)	48,000	その他収入 (事業収入等)	0	48,000		
事業成果							
アンケートの有無 (事業満足度、職員のホスピタリティ、施設の設備水準、事業を誰かに勧めたいか、の項目を入れたもの。)				有 無	アンケート結果		フルート:回収率45%とても良かった74、よかった高め90% ジョイント:回収率36、とても良かった64、良かった高め97%
指標		評価 (5点満点)	評価内容(件数・アンケート内容等、評価の根拠を記入)				
成	参加者数・参加率の達成度	4	フルートコンサート:エントランスホール入れ替わりもあって140人参加 参加率200% ジョイントコンサート2回実施:春80人、秋100人 参加率114%、143%、全体では予算比178% 他に県主催のムジークフェストが1年ぶりに開催された。雨天の為エントランスホールで開催入れ替えもあって390人が入場された。 目標値:1回当たり70人、計210人の参加者を見込む 実績値:フルート140、ジョイント2回180				
	参加者満足度	5	フルートコンサート:著名な曲でクラシックから映画音楽、日本の愛唱歌等幅広く親しみやすい曲でアンケートも高評価を得た。ジョイントコンサート:フォーク、民謡を中心にともに歌うこともでき、なじみ音も得た。フルートコンサートジョイントコンサートともとても良かった、良かった合わせ90%超。				
果	重点対象に対する課題解決つながったか	4	30ヵ所近くの文化施設、公民館などにチラシを配置して後、集客拠点には数回の追加配置を実施して集客に努めた。				
	費の確保・向上につながる工夫がなされたか	4	フルートコンサート:今年で3回目、過去の演奏曲と重ならないように数か月前から選曲を行いよく練習をされていることに感謝している。これはジョイントコンサートも同様で8年目となっているがいつも新鮮さを感じている。				
総合評価(自動計算)		4					
参加者や協働相手からの意見		(参加者)フルート:胸に響く音色、選曲もうっとりするものが多く現実を忘れストレスが消えた。演奏はもちろん景色が素晴らしい良い時を過ごせた。男声合唱など聞きたい。コンサート中の人の出入りが多いのが問題。ジョイント:ロケーションもよく楽しいひと時だった。知っている歌をみんなで歌えた。石巻市支援の方へ会えた。またギターを弾きたくなった。人の出入りが多く集中しにくい。 (協働者)演奏者:聴衆が多く、演奏が楽しい。庭園がとてもおほかからロケーションが素晴らしいとの感想をいただきますが、ボランティア参加いただいている出演者に感謝あるのみです。これからも継続できることを願っています。					
評価年度の状況と課題				改善案・次年度以降の目標			
総括		当館で行うイベントの中で無料で気軽に参加できることもあって集客が多く安定している。ジョイントコンサートは連続7年目になるが選曲がよく新鮮さいつも感じている。フルートコンサートは3年となり、演奏者が快くつないでくださっている。回を重ねることにお客様が増えてきている。音響条件でエントランスホールを会場としているが、人の出入りが多い場所となるのでボランティアスタッフの入場案内を依頼している。秋のジョイントは入園料無料の関西文化の日と重なったために和茶室に場所を変えた。他に前年開催されなかった県主催のムジークフェストが開催され賑わいを得た。		どちらも集客力のあるイベントとなっているのでボランティア参加の演奏者の協力を願っている。演奏場所としても人の出入りはあるが音響効果上エントランスホールで実施していきたい。その場合のお客様への案内ができるようにスタッフ配置を考えたい。広報については集客の多い観光案内所を中心にチラシの再配置を地道に行う。			
評価							
(奈良市) 集客については目標値を上回ることができ、アンケートの満足度も高かった。元々、コンサートを行う施設ではないため、来館者の誘導などに工夫が必要。観光客を重点対象としているが、ほとんどの来場者が県内であるため、広報等を検討する必要がある。							

奈良市文化振興計画 事業評価シート（令和元年度）

事業名		癒しのオータムコンサート			施設名	奈良市北部会館市民文化ホール		
総合計画 該当項目	章	第2章	教育・歴史・文化		文化振興計画 該当項目	(2) -1		
	基本施策	2-05	文化振興					
	施策	2-05-01	文化の振興					
実施形態	単発・継続		事業開始年	R1年	実施回数 (今年度)	1		
日時	令和元年11月24日			会場	奈良市北部会館市民文化ホール			
目的と内容	優れた演奏を身近に鑑賞していただく機会を提供する。オカリナ&ピアノの音色による癒しの空間を楽しんでもらう。奈良市社会福祉協議会に事業告知をお願いし、障がい者の方たちも気軽に来館し、楽しんでいただけるコンサートを目的とする。							
重点対象 (主なもの 3つまで)	市民	○	市外在住者	観光客	地域住民	未就学児		
	小中学生		若者(高・大等)	社会人(40歳未満)	社会人(40歳以上)	高齢者	○	
	子育て世帯		障がい者	○	在留外国人	訪日外国人		
	その他	()						
重点対象に対する 課題と取り組み	障がい者の方々に来館していただきやすくなるよう別途料金設定を作っているが、車いすスペースの設置及び確保手段等 考えなければならない点がある。							
事業費(円)								
	歳入				歳出			
予算	市費(指定管理料等)	○	その他収入 (事業収入等)	100,000		100,000		
決算	市費(指定管理料等)	○	その他収入 (事業収入等)	93,750		93,750		
事業成果								
アンケートの有無 (事業満足度、職員のホスピタリティ、施設設備水準、事業を誰かに勧めたいか、の項目を入れたもの。)			有	アンケート結果	有			
指標		評価 (5点満点)	評価内容(件数・アンケート内容等、評価の根拠を記入)					
成 果	参加者数・参加率の達成度	4	ホールの満席に近い参加者があった。 目標値 200 実績値 204					
	参加者満足度	4	8割以上の方から講演内容、時間、料金設定に高い評価を得ました。					
	重点対象に対する課題解決つながったか	4	施設についてのアンケートでは、快適及び普通の回答が殆どを占めた。					
	質の確保・向上につながる工夫がなされたか	4	音楽に映像と光の演出を加えることにより質の向上が図れた。					
総合評価(自動計算)		4						
参加者や協働相手からの意見		(参加者) 楽しい時間を過ごせました。 500円でこんな素晴らしいコンサートをありがとうございます。他 (協働者)						
総括	評価年度の状況と課題			改善案・次年度以降の目標				
	参加者からは高い評価を受けている。事業経費の精査を行い、質の向上につながるよう収支の見直しを図る。			入場料や支出内容を見直し、さらなる質の向上と満足度の高いコンサートの開催に努める。参加者から講演内容、時間、料金設定などに高い評価を受けている。収支や内容の精査を行い今後も継続する必要がある。				
評価 (奈良市) 障がいがある人も気軽に楽しめるコンサートとして開催。また、チケット代をワンコインに設定するなど、参加のハードルを下げることを意識している。								

奈良市文化振興計画 事業評価シート（令和元年度）

事業名		2019年度 高の原文化・健康講座		施設名	奈良市北部会館市民文化ホール	
総合計画 該当項目	章	第2章		教育・歴史・文化		文化振興計画 該当項目
	基本施策	2-05		文化振興		
	施策	2-05-01		文化の振興		
実施形態	単発・継続		事業開始年	平成17年度		実施回数 (今年度)
日時	平成31年4月10日～令和2年3月25日		会場	奈良市北部会館市民文化ホール他		
目的と内容	市民の健康増進及びコミュニケーションの場を提供することにより地域の活性化を目的とする。様々なジャンルの講座を通じて高齢者から子どもまでホールとして文化に親しんでもらえるよう、また当ホールが異世代交流の場となるよう企画・開催する。「地域の文化芸術振興」「地域のにぎわいづくり」「地域活性化運営」3つのテーマからなる30講座					
重点対象 (主なもの 3つまで)	市民	○	市外在住者	○	観光客	○
	小中学生		若者(高・大等)		社会人(40歳未満)	
	子育て世帯		障がい者		社会人(40歳以上)	
	その他	()				
重点対象に対する 課題と取り組み	開催年度によって波があるが、現在健康増進に関する講座(ヨガ等)の参加者が多く、文化芸術系の事業に関しては水彩画以外は少ない。今後も講師との意見交換による見直しが必要と思う。					
事業費(円)						
			歳入		歳出	
予算	市費(指定管理料等)	0	その他収入 (事業収入等)	16,920,000	16,920,000	
決算	市費(指定管理料等)	0	その他収入 (事業収入等)	11,161,350	11,161,350	
事業成果						
アンケートの有無 (事業満足度、職員のホスピタリティ、施設の設備水準、事業を誰かに勧めたいか、の項目を入れたもの。)			有	アンケート結果	無 (新型コロナウイルス拡散予防のため、アンケート回収日 を中止したため。)	
指標		評価 (5点満点)	評価内容(件数・アンケート内容等、評価の根拠を記入)			
成	参加者数・参加率の達成度	2	北部地域の少子高齢化に伴い参加者数が減少している。 目標値: 15000 実績値: 9266			
	参加者満足度	3	継続参加者が多く在籍していることから、満足度は高いと推察します。			
果	重点対象に対する課題解決つながったか	3	文化・芸術系と健康増進系で参加比率に大きな変わりはなく現状維持につながった。			
	質の確保・向上につながる工夫がなされたか	3	文化芸術振興、地域のにぎわいづくり、地域活性化運営の3つの事業特色を持つ事業展開を行い、講座の充実を図る事が出来た。			
総合評価(自動計算)			3			
参加者や協働相手からの意見		(参加者)				
		(協働者)				
総括	評価年度の状況と課題			改善案・次年度以降の目標		
	個々の講座の参加者数の増減は小さなものであったが、すべての講座を年間で台算したときに実績値が前年度を下回る数値となった。一つ一つの講座の参加者数を増やす方策を検討する必要がある。			新規参加者を増やすために講座の広報を強化する。習熟度に応じたクラス編成を引き続き行い講座内容に新鮮味を入れ、継続参加者の引き留めと新規参加者が申し込みやすい環境を創造する。高の原文化・健康講座は市民の健康、地域のコミュニケーション及び文化振興に必要不可欠なものになっている。奈良市の施設で開催される安心感を持つ講座を、安価で気軽に参加できるように展開している。		
評価						
(奈良市) 地域の活性化、地域住民の交流などにつながる事業ではあるが、参加者数は減少傾向にある。また、市民のニーズをうけて幅広い内容で展開しているが、本来の施設の設置目的、また文化振興計画にのっとった事業を行うよう意識する必要がある。						

奈良市文化振興計画 事業評価シート（令和元年度）

事業名		和楽器講座		施設名	奈良市北部会館市民文化ホール						
総合計画 該当項目	章	第2章		教育・歴史・文化		文化振興計画 該当項目	(4)-1				
	基本施策	2-05		文化振興							
	施策	2-05-01		文化の振興							
実施形態	単発・継続		事業開始年	H30年度		実施回数 (今年度)	7回				
日時	令和元年9/21、10/5、11/9、12/21 令和2年1/25、2/22、3/21			会場	奈良市北部会館 和室						
目的と内容	琴・三味線・尺八といった和楽器に触れる事で日本の伝統文化に興味を持っていただく。日本の音を感じてもらおうきかけづくりの場となるような講座を開講する。										
重点対象 (主なもの 3つまで)	市民		市外在住者		観光客		地域住民	○	未就学児		
	小中学生	○	若者(高・大等)		社会人(40歳未満)		社会人(40歳以上)		高齢者	○	
	子育て世帯		障がい者		在留外国人		訪日外国人				
	その他	()									
重点対象に対する 課題と取り組み	貼り紙等でニーズ調査を行い、実施。今後文化講座として月1回の通年事業として定着させていきたいと考えている。 楽器等準備物について必要数の維持を考える必要性あり。										
事業費(円)											
歳入											
予算	市費(指定管理料等)		○	その他収入 (事業収入等)			270,000	歳出			270,000
決算	市費(指定管理料等)		○	その他収入 (事業収入等)			184,500				184,500
事業成果											
アンケートの有無 (事業満足度、職員のホスピタリティ、施設の設備水準、事業を誰かに勧めたいか、の項目を入れたもの。)				有			アンケート結果		無 (新型コロナウイルス拡散予防のため、アンケート回収日を中止したため。)		
指標		評価 (5点満点)		評価内容(件数・アンケート内容等、評価の根拠を記入)							
成 果	参加者数・参加率の達成度		4	目標値を上回る参加があった。 目標値 20 実績値: 21							
	参加者満足度		4	目標値を超える参加があった事から一定の満足度があったと推察します。							
	重点対象に対する課題解決つながったか		3	参加者数から講座に対するニーズはつかめたと考えます。							
	質の確保・向上につながる工夫がなされたか		4	当ホールで人気のコンサートを開催する演奏家を講師に依頼していることから、質の高い講座を開催できたと考えます。							
総合評価(自動計算)				4							
参加者や協働相手からの意見				(参加者)							
				(協働者)							
評価年度の状況と課題					改善案・次年度以降の目標						
本年は6回の開催であった。 開催回数の増加を課題とする。準備物については引き続き検討課題になります。					講師と開催日等について調整を図り、毎月定期的に開催する音楽文化により地域のにぎわいに貢献する事業を目指します。 和楽器に対するニーズにこたえるべく、継続的な講座になるように収支や開催回数などの調整を行い開設している。						
評価											
(奈良市)											
目標値を上回っているが定員自体が少ない。楽器等の準備物の関係から大きく定員を増やすことはできないが、より内容を深いものとするために開催回数を増やすなどを検討している。											

奈良市文化振興計画 事業評価シート (令和元年度)

事業名		新元号『令和』記念 華邨が書く万葉の世界		施設名	奈良市杉岡華邨書道美術館						
総合計画 該当項目	章	第2章	教育・歴史・文化		文化振興計画 該当項目	(2)-①②、(3)-①②③④、(4)-①④					
	基本施策 施策	2-05 2-05-01	文化振興 文化の振興								
実施形態	単発・継続		事業開始年	令和元年	実施回数 (今年度)	1回					
日時	令和元年7月20日(土)~9月29日(日)		会場	奈良市杉岡華邨書道美術館							
目的と内容	万葉集から出典された「美しい調和」との意味が込められた新元号令和の時代が始まり、杉岡華邨もまた「万葉集を読むと、古代日本人の感情が赤裸々伝わってくる。大らかな古代人の叙情が、感動をそのまま自然に表出しており、非常にわかり易く、親しみを感じる」と語り、多くの万葉集の歌を題材としてきた。本展では当館収蔵の華邨作品の中から、万葉の歌をテーマにした作品を集めて紹介。										
重点対象 (主なもの 3つまで)	市民	<input type="radio"/>	市外在住者	<input type="radio"/>	観光客	<input type="radio"/>	地域住民	<input type="radio"/>	未就学児	<input type="radio"/>	
	小中学生		若者(高・大等)		社会人(40歳未満)		社会人(40歳以上)		高齢者	<input type="radio"/>	
	子育て世帯		障がい者		在留外国人		訪日外国人				
その他	()										
重点対象に対する 課題と取り組み	新元号と共に注目を集める万葉集にスポットを当て、書道文化講座と共にPRする。										
事業費(円)											
	歳入				歳出						
予算	市費(指定管理料等)	565,000		その他収入 (事業収入等)	0		565,000				
決算	市費(指定管理料等)	456,369		その他収入 (事業収入等)	0		456,369				
事業成果											
アンケートの有無 (事業満足度、職員のホスピタリティ、施設の設備水準、事業を誰かに勧めたいか、の項目を入れたもの。)				<input checked="" type="radio"/> 有・無		アンケート結果		15			
指標		評価 (5点満点)		評価内容(件数・アンケート内容等、評価の根拠を記入)							
成	参加者数・参加率の達成度		3	93.7% 目標値: 1,000 実績値: 937							
	参加者満足度		4	【アンケート結果】 大変良かった8 よかった6 どちらとも言えない1 あまり良くなかった0 良くなかった0							
果	重点対象に対する課題解決つながったか		3	【アンケート結果】 市内3 観光のついでに立ち寄った7 60代以上6							
	質の確保・向上につながる工夫がなされたか		3	日展会員以上の現役作家の先生方大学教授に監修を頂き、奈良市杉岡華邨書道美術館学芸員が担当することで展覧会の質の確保・向上を行った。							
総合評価(自動計算)				3							
参加者や協働相手からの意見				(参加者) 万葉集の巻数数字を入れて欲しかった。年代順だったのでわかりやすかった。やはり2階の書、下の寸松庵?は見事、小文字はさすが一級品とおもいました。良いものを見せて頂きました。他 (協働者)							
総括	評価年度の状況と課題				改善案・次年度以降の目標						
	新たな元号が定められ、令和の出典となった万葉集に注目が集まったため、書道文化講座と合わせて万葉集に注目した展覧会を開催した。9月は比較的多くの来館者となったが8月が例年を大幅に下回り目標達成できなかった。				館藏品による展覧会に限られた収蔵作品を様々なテーマにより選別してご観覧いただくものではあるが、リピーターの方ほど見たことのある作品が増え観覧の動機付けが難しくなると考えられる。初めての方が興味を持つようなタイトルやテーマの設定に加えて、列品解説講座などを活用してリピーターの満足度の向上を行う。						
評価											
(奈良市) 元号が令和になったことから、万葉集をテーマとした展示を実施。杉岡作品を中心とした作品展は毎年度開催しているため、新鮮さに乏しいと感じられることが考えられる。ただ、同施設の趣旨から同様の展覧会は実施すべきであるが、来館者を増やす工夫に富んだ企画も必要である。											

奈良市文化振興計画 事業評価シート（令和元年度）

事業名		書道文化講座		施設名	奈良市杉岡華邨書道美術館		
総合計画 該当項目	章	第2章	教育・歴史・文化	文化振興計画 該当項目	(1)-②③、(4)-①④		
	基本施策 施策	2-05 2-05-01	文化振興 文化の振興				
実施形態	<input checked="" type="radio"/> 継続		事業開始年	平成12年	実施回数 (今年度)	3~4	
日時	6月23日、9月7日、11月9日		会場	奈良市杉岡華邨書道美術館			
目的と内容	企画展覧会出展者等の作品や制作論の講演、さらには書のみならず広く芸術文化に関わる講演を開催することで、書道愛好家の方に書道文化をより深く理解して頂くと共に、市民に生涯学習の一環として自己を磨く機会を持っていただき書道文化及び市民文化振興に貢献することを目的とする。外部の講師を招き、企画展覧会に関連する内容や広く書文化やその他芸術文化についてお話しいただく書道文化講座を年数回開催する。						
重点対象 (主なもの 3つまで)	市民	<input type="radio"/>	市外在住者	<input type="radio"/>	観光客	地域住民	未就学児
	小中学生 子育て世帯 その他		若者(高・大等)		社会人(40歳未満)	社会人(40歳以上)	高齢者
重点対象に対する 課題と取り組み	企画展の内容の理解を促し追加的な学習機会となるような講演、または書美術への関心を持つきっかけとなるような内容を検討する。						
事業費(円)							
歳入							
予算	市費(指定管理料等)	0	その他収入 (事業収入等)	300,000	歳出		
決算	市費(指定管理料等)	0	その他収入 (事業収入等)	235,507	235,507		
事業成果							
アンケートの有無 (事業満足度、職員のホテルリティ、施設の設備水準、事業を誰かに勧めたいか、の項目を入れたもの。)			<input checked="" type="radio"/> 有	アンケート結果	0		
指標		評価 (5点満点)	評価内容(件数・アンケート内容等、評価の根拠を記入)				
成 果	参加者数・参加率の達成度	3	75.0% 目標値 300 実績値: 225				
	参加者満足度						
	重点対象に対する課題解決つながったか						
	質の確保・向上につながる工夫がなされたか	3	講師には大学教授や書家の方など適任者を選んでいる				
総合評価(自動計算)		3					
参加者や協働相手からの意見		(参加者)					
		(協働者)					
総括	評価年度の状況と課題			改善案・次年度以降の目標			
	3月に予定していた書道文化講座が新型コロナウイルスへの対応のため中止となったため当初目標を達成できなかったが、開催した3回は概ね目標を達成できた。様々な要因で受講者は増減するが、固定のファンがおられる方や所属団体からの協力がある方を講師に起用することも大切であるが、社会教育の場であることも考慮しその内容や講師を選定することが必要である。			講座の広報をより充実させると共に、展覧会との連携を深めより一体感のある講座を開催することで受講者の満足度向上を目指す。			
評価							
(奈良市) アンケート結果を活用した自己評価が出来ていないため、講座の満足度や重点対象への取組みについて評価ができていない。今後は事業アンケートを行うべきと考える。							

奈良市文化振興計画 事業評価シート（令和元年度）

事業名		書道実技講座		施設名	奈良市杉岡華邨書道美術館					
総合計画 該当項目	章	第2章	教育・歴史・文化		文化振興計画 該当項目	(1)-①②③、(4)-①④				
	基本施策	2-05	文化振興							
	施策	2-05-01	文化の振興							
実施形態	<input checked="" type="radio"/> 単・継続	事業開始年	平成25年		実施回数 (今年度)	1回				
日時	未定		会場		奈良市杉岡華邨書道美術館					
目的と内容	書の初心者でも簡単に参加できる形式で、年賀状など生活で活かせる書の実技を体験できる講座を通して、市民に生涯学習の一環として自己を磨く機会を持っていただき書道文化及び市民文化振興に貢献することを目的とする。講師を招き、初心者でも参加できる年賀状の書き方についての実技指導の講座。基本的な年賀状の書き方についての説明のあと実際に受講者が書いたものを個別に指導していただく。									
重点対象 (主なもの 3つまで)	市民	<input type="radio"/>	市外在住者	<input type="radio"/>	観光客	<input type="radio"/>	地域住民	<input type="radio"/>	未就学児	<input type="radio"/>
	小中学生		若者(高・大等)		社会人(40歳未満)		社会人(40歳以上)	<input type="radio"/>	高齢者	<input type="radio"/>
	子育て世帯		障がい者		在留外国人		訪日外国人			
	その他	()								
重点対象に対する 課題と取り組み	書と親しむ機会が少なくなった現代において年賀状を通して書に接する機会を作り書芸術や書の文化に関心を持っていただく。									
事業費(円)										
		歳入				歳出				
予算	市費(指定管理料等)	<input type="radio"/>	その他収入 (事業収入等)	20,000		20,000				
決算	市費(指定管理料等)	<input type="radio"/>	その他収入 (事業収入等)	11,467		11,467				
事業成果										
アンケートの有無 (事業満足度、職員のホスピタリティ、施設の設備水準、事業を誰かに勧めたいか、の項目を入れたもの。)			<input checked="" type="radio"/> 有	無	アンケート結果	<input type="radio"/>				
指標		評価 (5点満点)	評価内容(件数・アンケート内容等、評価の根拠を記入)							
成	参加者数・参加率の達成度	1	20.0% 目標値: 20 実績値: 4							
	参加者満足度									
果	重点対象に対する課題解決つながったか									
	質の確保・向上につながる工夫がなされたか	3	日展会員の佐伯館長自身が講師として指導された。							
総合評価(自動計算)		2								
参加者や協働相手からの意見		(参加者)								
		(協働者)								
総括	評価年度の状況と課題				改善案・次年度以降の目標					
	講師の先生の都合と市内の移動が難しい奈良マラソン開催日を避けたため例年よりも早い11月下旬の開催となったため、大幅に参加者が減少した。				例年は市内の参加者だけでほぼ定員となっていたため積極的な広報を控えていたが、今後は市外への広報も拡充したい。また、開催時期も可能な限り12月初旬ごろとし、参加者の利便性向上を図る。					
評価 (奈良市) アンケート結果を活用した自己評価が出来ていないため、講座の満足度や重点対象への取組みについて評価ができていない。今後は事業アンケートを行うべきと考える。										